

2. 家庭生活

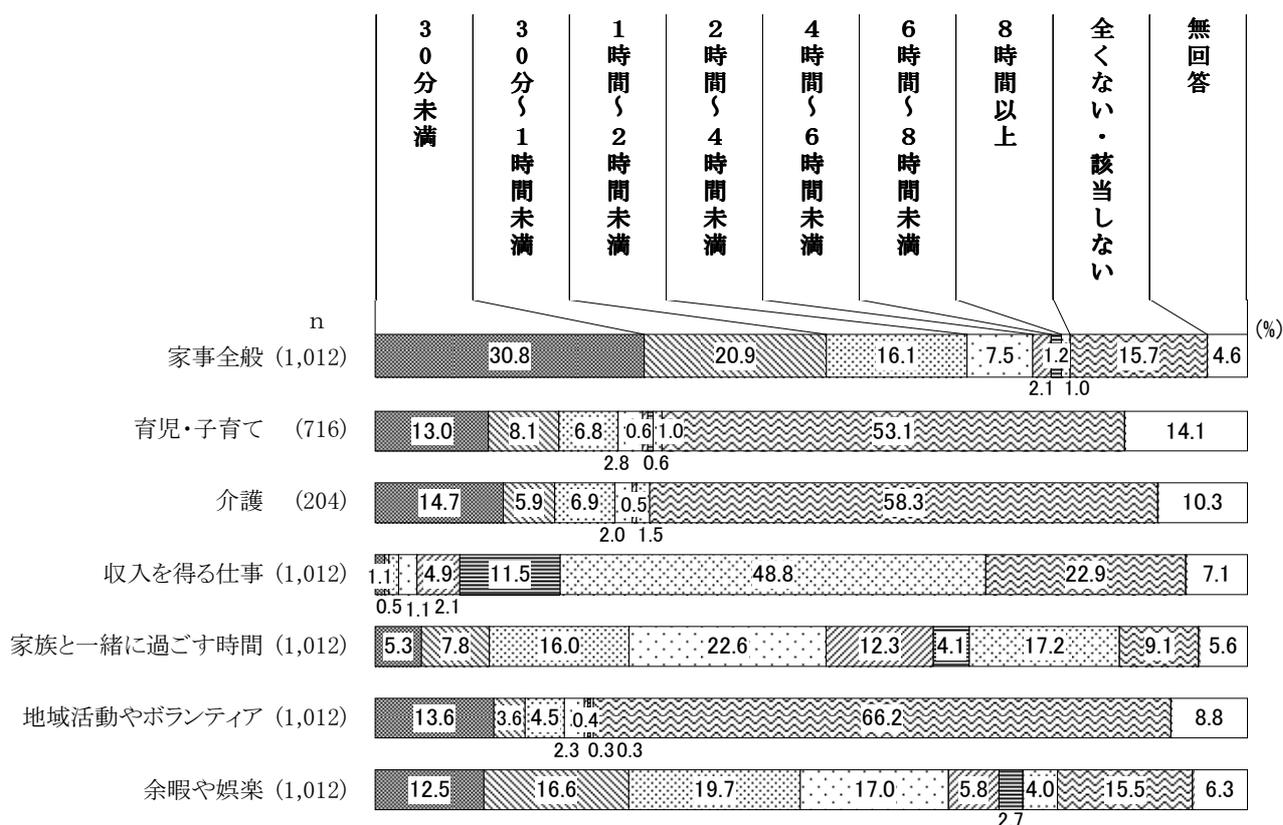
(1) 生活時間

問3 あなたのふだん（平日と休日）の生活時間についてうかがいます。以下の活動について、一日に費やす時間はどのくらいですか。

（それぞれについて該当する「1～8」に○を1つ）

■ 平日

図表2-1 生活時間〔平日〕



※【育児・子育て】【介護】は該当者のみ

計7項目の活動を、それぞれ1日にどの程度費やしているか、平日と休日に分けてきた。

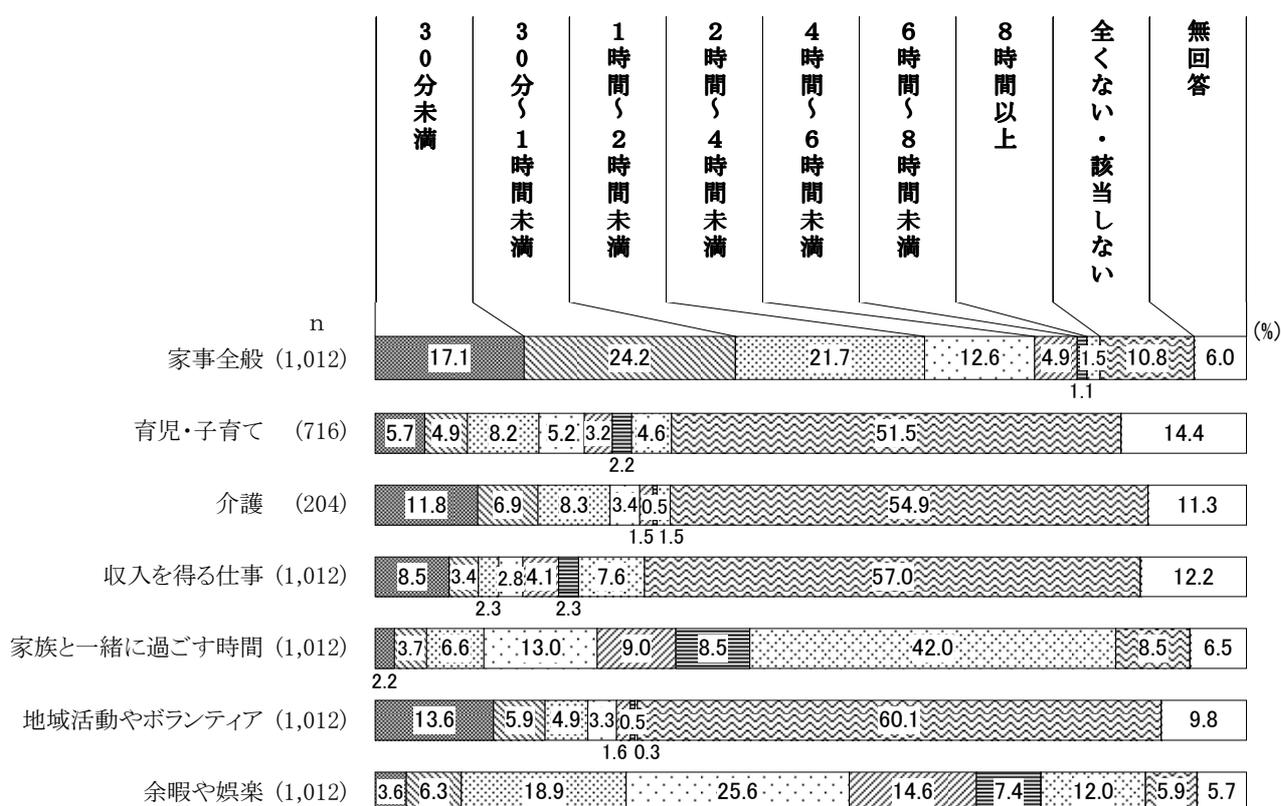
平日では、【収入を得る仕事】の「8時間以上」が48.8%で突出している。

また、【家事全般】は「30分未満」(30.8%)と「30分～1時間未満」(20.9%)が、【家族と一緒に過ごす時間】は「2時間～4時間未満」(22.6%)が高くなっている。

なお、【余暇や娯楽】は分散傾向にある。(図表2-1)

■ 休日

図表 2-2 生活時間〔休日〕



※【育児・子育て】【介護】は該当者のみ

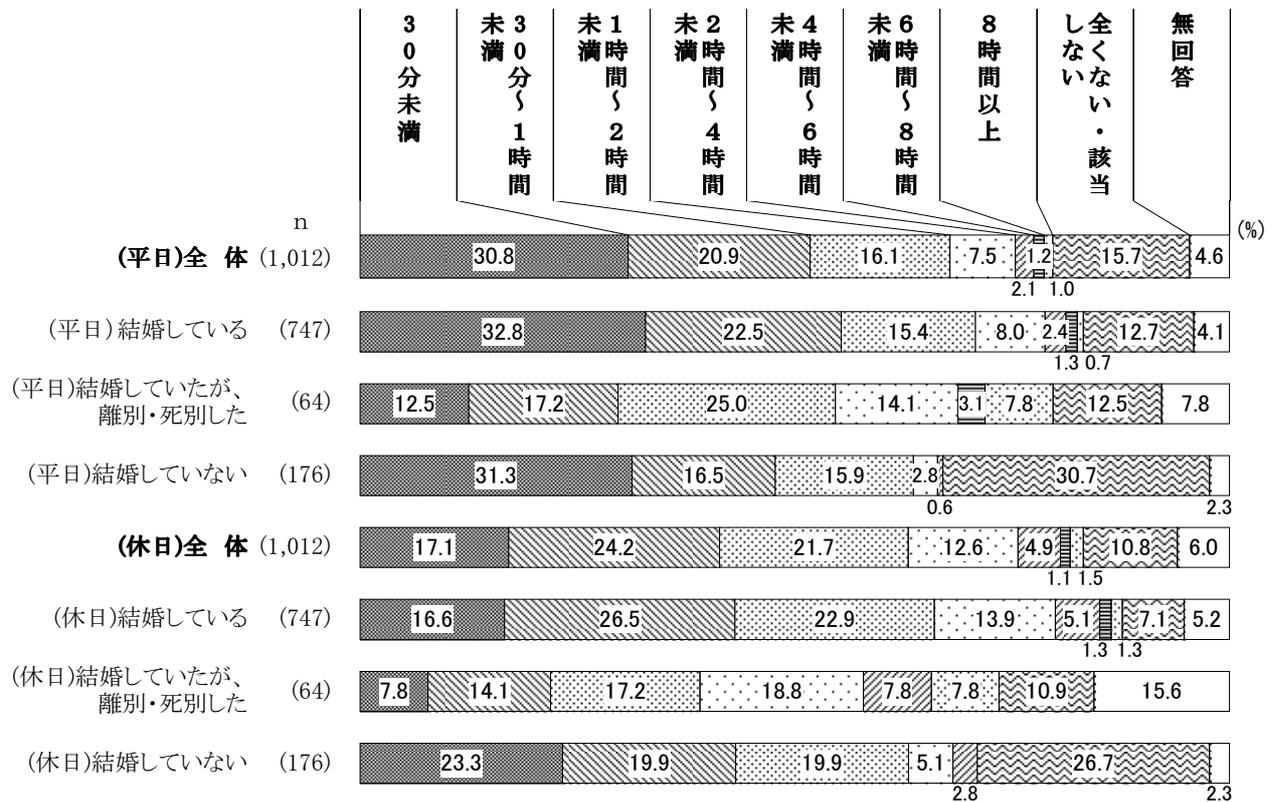
休日では、【家族と一緒に過ごす時間】の「8時間以上」が42.0%で突出している。
 また、【家事全般】は「30分～1時間未満」(24.2%)と「1時間～2時間未満」(21.7%)が、
 【余暇や娯楽】は「2時間～4時間未満」(25.6%)が高くなっている。(図表2-2)

第IV章 調査の結果

現実の生活時間について、未既婚別でみた。

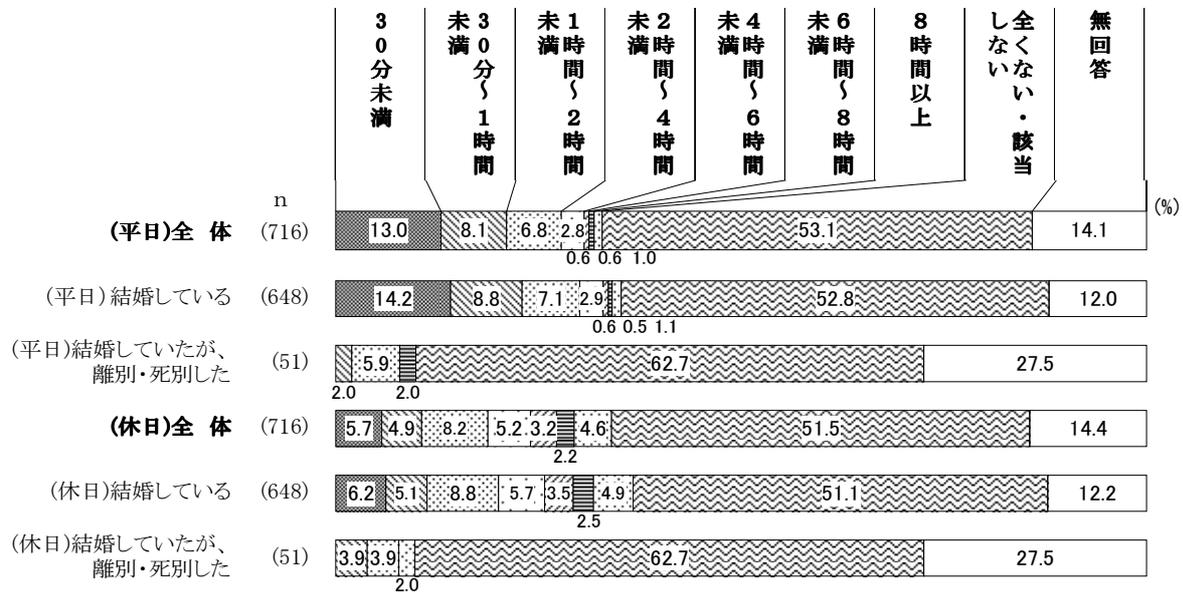
【家事全般】についてみると、「平日」は、結婚している人、結婚していない人とも、「30分未満」が高くなっているが、「休日」になると、結婚している人では《30分以上》が、結婚していない人に比べて高くなっている。(図表2-3)

図表2-3 生活時間—家事全般（未既婚別）



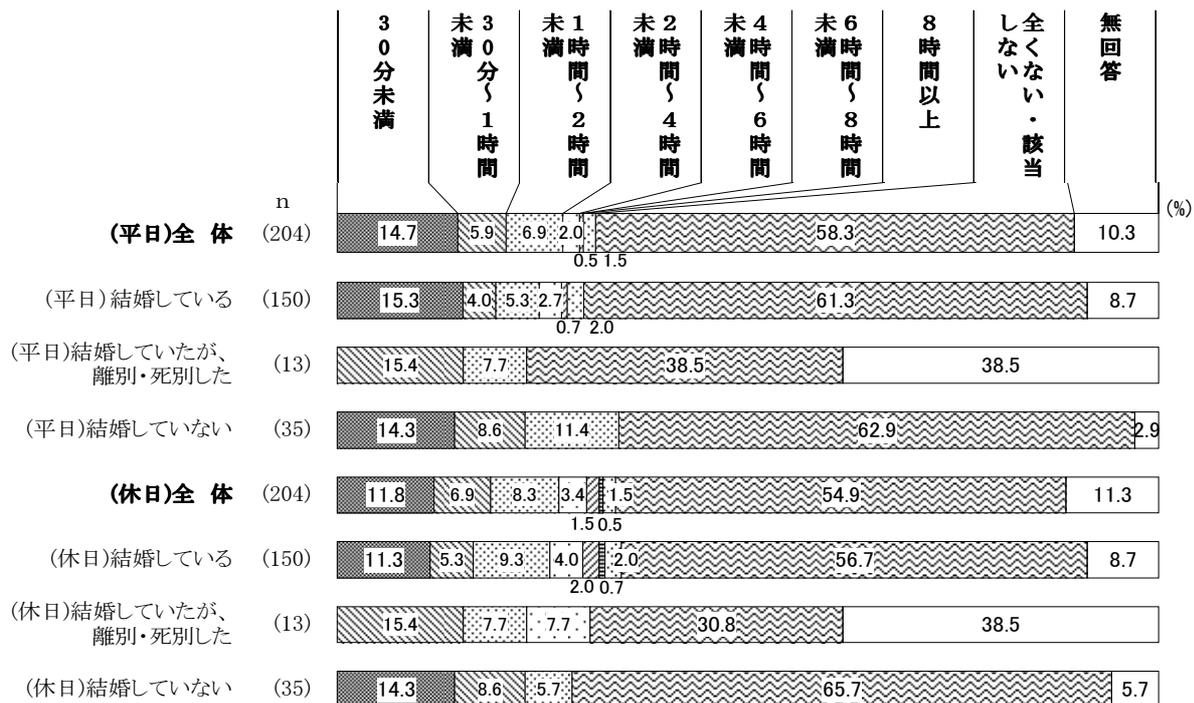
【育児・子育て】についてみると、「平日」は、結婚している人では「30分未満」「30分～1時間未満」が高くなっているが、「休日」になると《1時間以上》がやや高くなっている。(図表2-4)

図表2-4 生活時間—育児・子育て（未既婚別）



【介護】についてみると、「平日」、「休日」とも、結婚していない人では「30分～1時間未満」がやや高くなっている。(図表2-5)

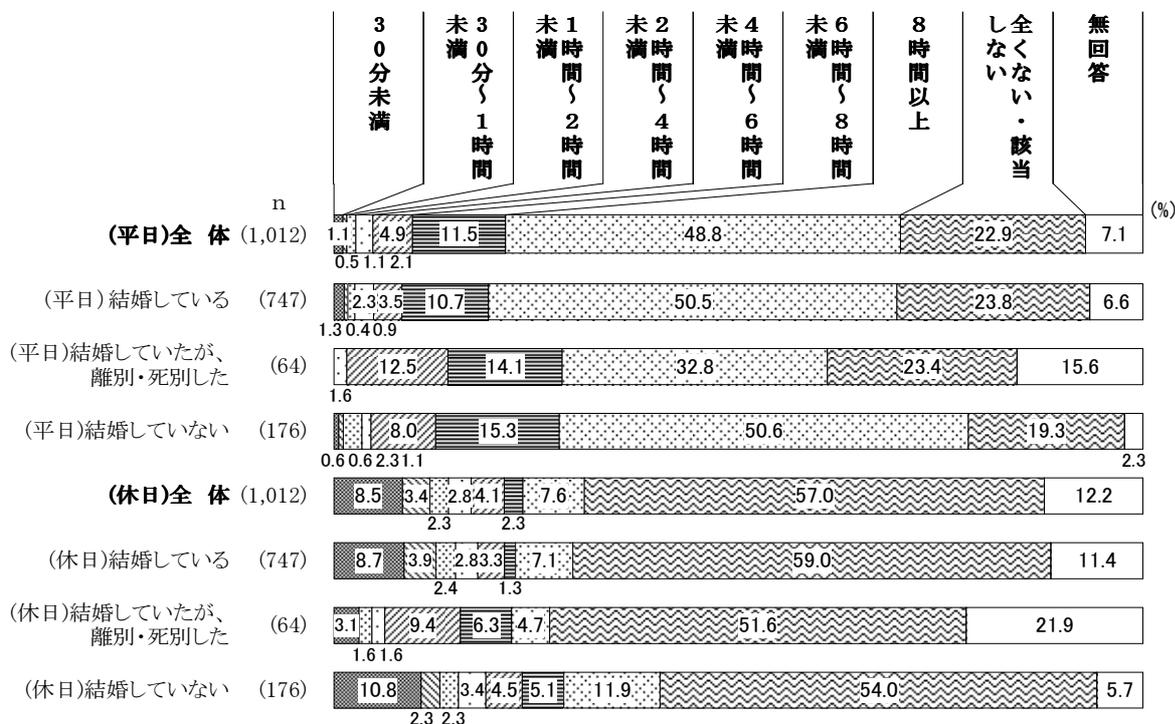
図表2-5 生活時間—介護（未既婚別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

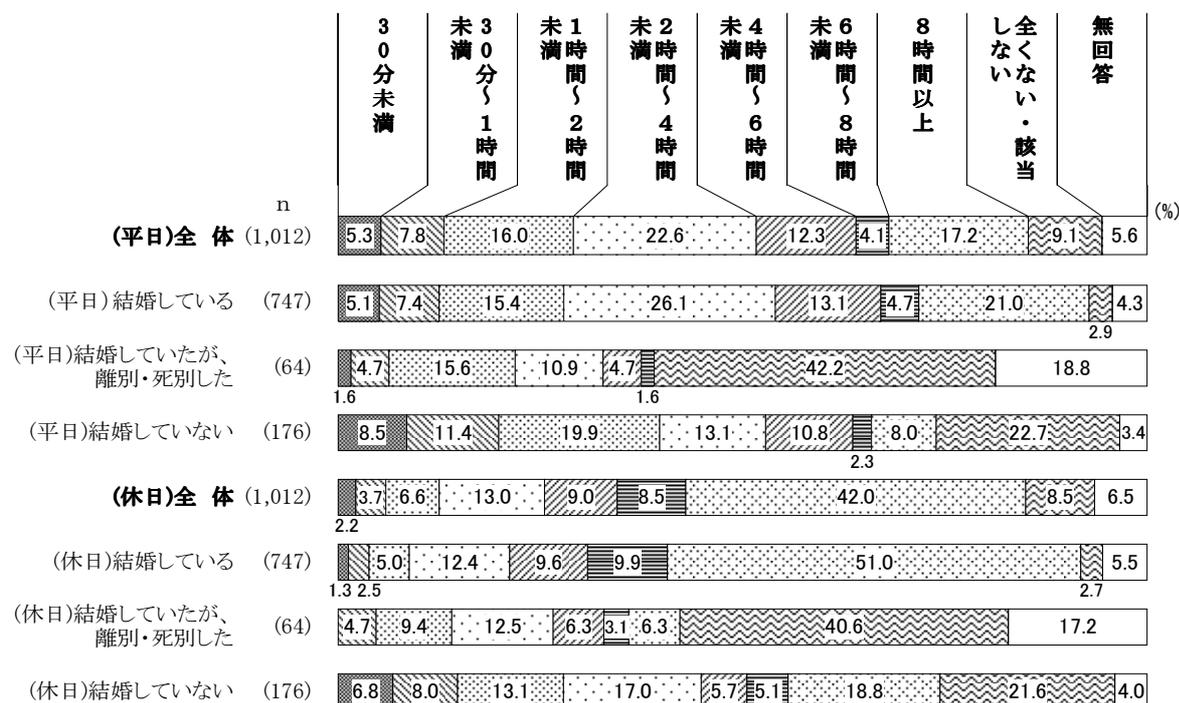
【収入を得る仕事】についてみると、「平日」は、結婚している人、結婚していない人とも「8時間以上」が5割を超えている。「休日」については、結婚している人、結婚していない人とも、働いている人は5割に満たない。(図表2-6)

図表2-6 生活時間—収入を得る仕事（未既婚別）



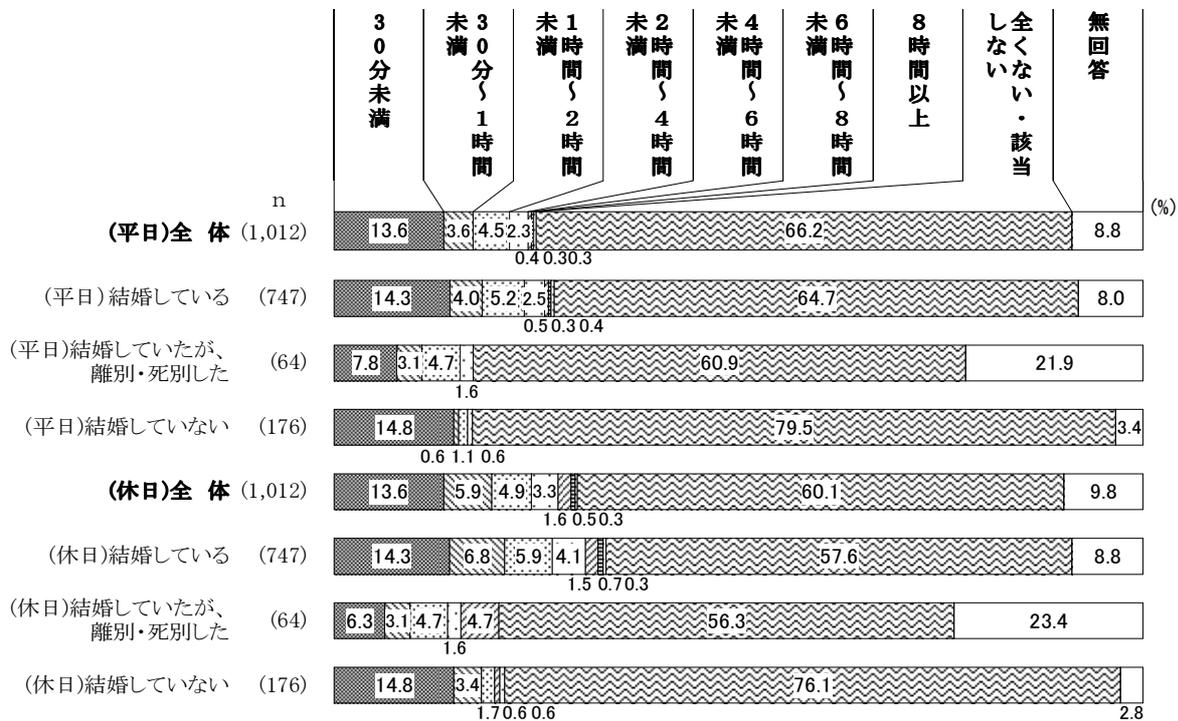
【家族と一緒に過ごす時間】についてみると、「平日」は、結婚している人では「2時間～4時間未満」(26.1%)が高くなっているが、「休日」になると「8時間以上」が51.0%と過半数を占めている。(図表2-7)

図表2-7 生活時間—家族と一緒に過ごす時間（未既婚別）



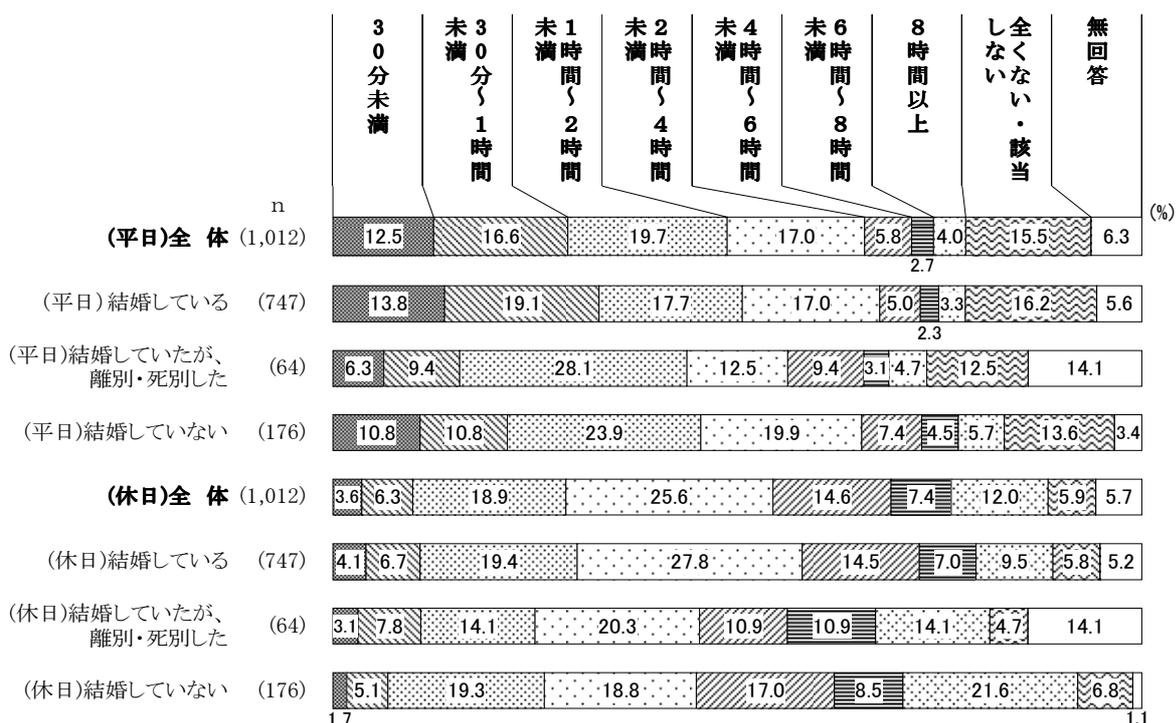
【地域活動やボランティアに費やす時間】についてみると、「平日」、「休日」とも、結婚しているかにかかわらず、「30分未満」が1割台半ばとなっている。(図表2-8)

図表2-8 生活時間—地域活動やボランティアに費やす時間（未既婚別）



【余暇や娯楽】についてみると、「平日」は、結婚している人、結婚していない人とも「1時間～2時間未満」「2時間～4時間未満」が高くなっているが、「休日」になると、「4時間以上」が増加している。特に、結婚していない人では「8時間以上」が21.6%となっている。(図表2-9)

図表2-9 生活時間—余暇や娯楽（未既婚別）



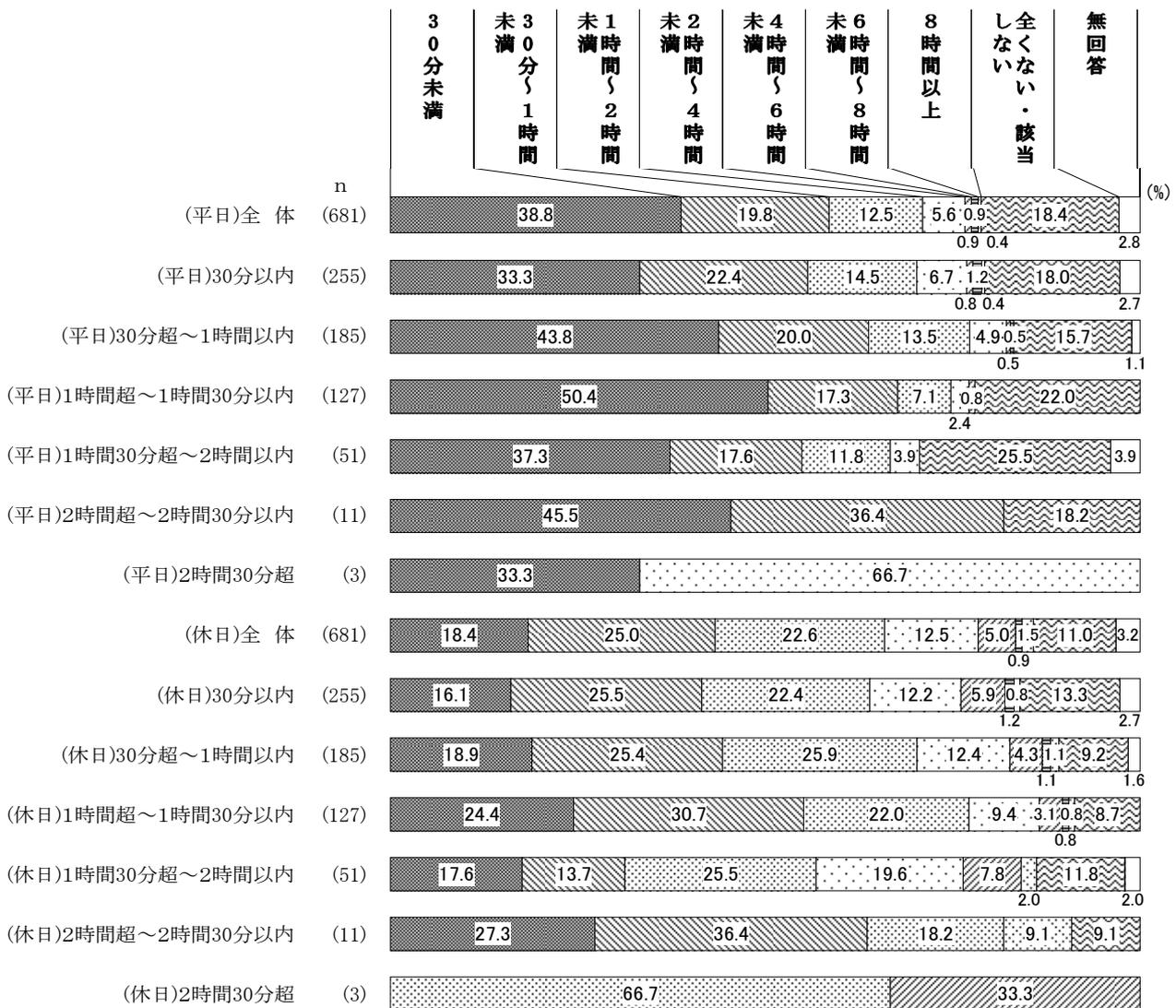
第IV章 調査の結果

現実の生活時間について通勤・通学時間別でみた。

【家事全般】についてみると、平日では、1時間超～1時間30分以内で、「30分未満」が50.4%と過半数となっている。

休日では、1時間超～1時間30分以内で、「30分～1時間未満」が30.7%と高くなっている。
(図表2-10)

図表2-10 生活時間—家事全般（通勤・通学時間別）

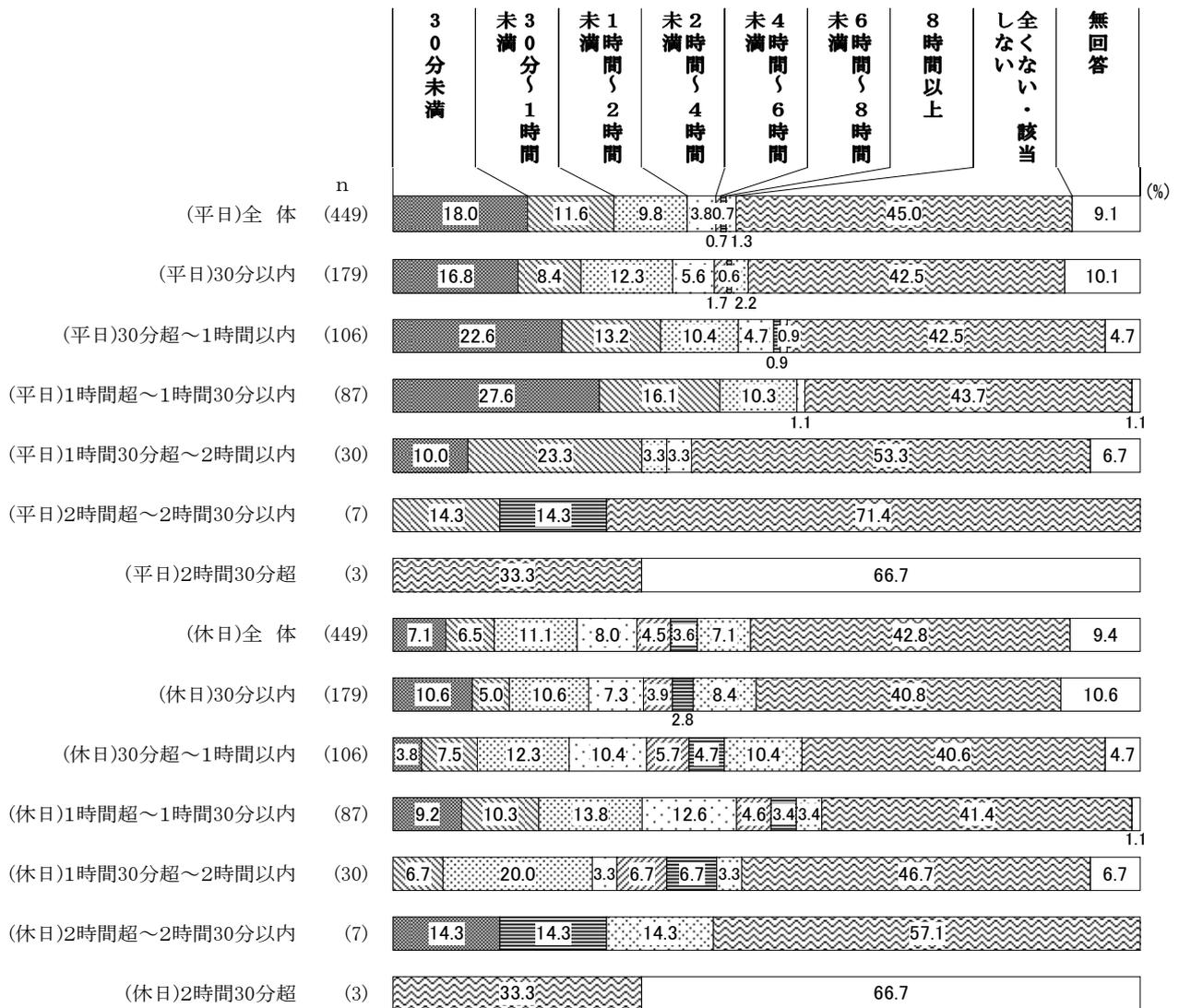


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【育児・子育て】についてみると、平日では、1時間超～1時間30分以内で、「30分未満」が27.6%と高くなっている。

休日では、1時間30分超～2時間以内で、「1時間～2時間未満」が20.0%とやや高くなっている。(図表2-11)

図表2-11 生活時間—育児・子育て（通勤・通学時間別）



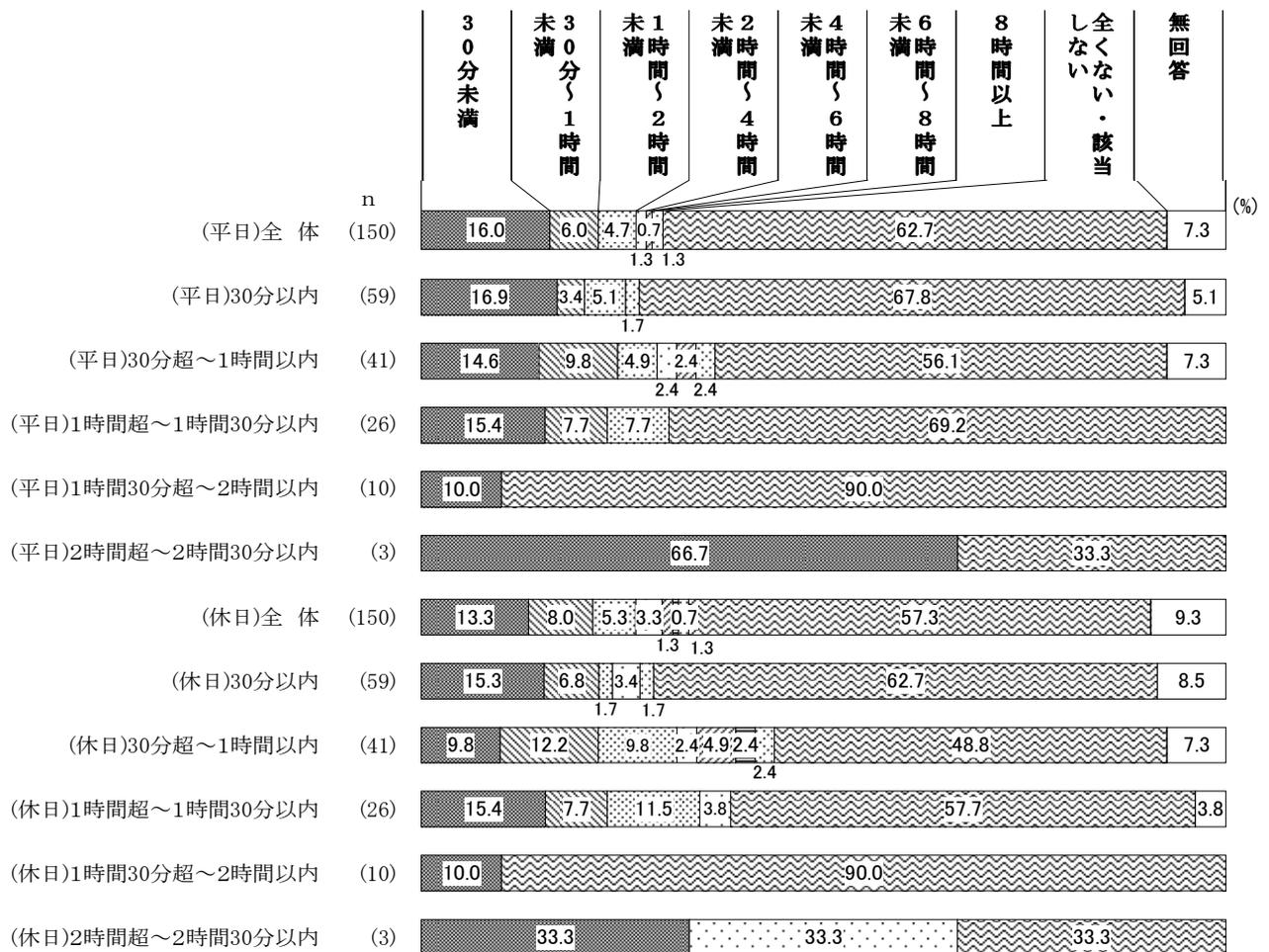
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

【介護】についてみると、平日では、時間による大きな差は見られないが、30分超～1時間以内、1時間超～1時間30分以内で、「30分～1時間未満」が、それぞれ9.8%、7.7%と、30分以内の3.4%より、やや高くなっている。

休日では、30分超～1時間以内で、「30分～1時間未満」が12.2%とやや高くなっている。(図表2-12)

図表2-12 生活時間—介護（通勤・通学時間別）



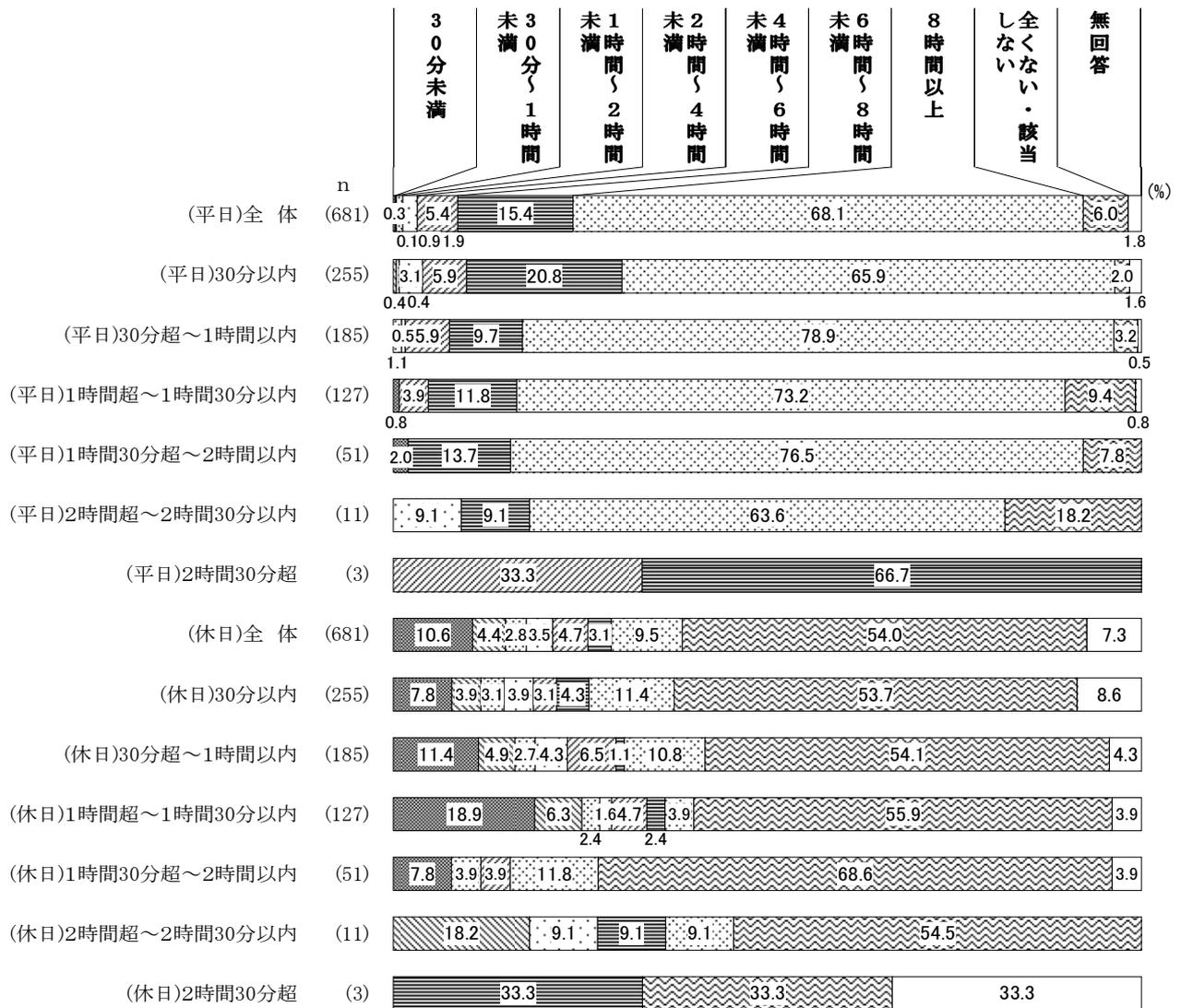
※2時間30分超は回答者なし

※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【収入を得る仕事】についてみると、平日では、30分超～1時間以内、1時間30分超～2時間以内で「8時間以上」が、それぞれ78.9%、76.5%と、7割台半ばを超えて高くなっている。

休日では、1時間超～1時間30分以内で「30分未満」が18.9%と高くなっている。(図表2-13)

図表2-13 生活時間—収入を得る仕事（通勤・通学時間別）

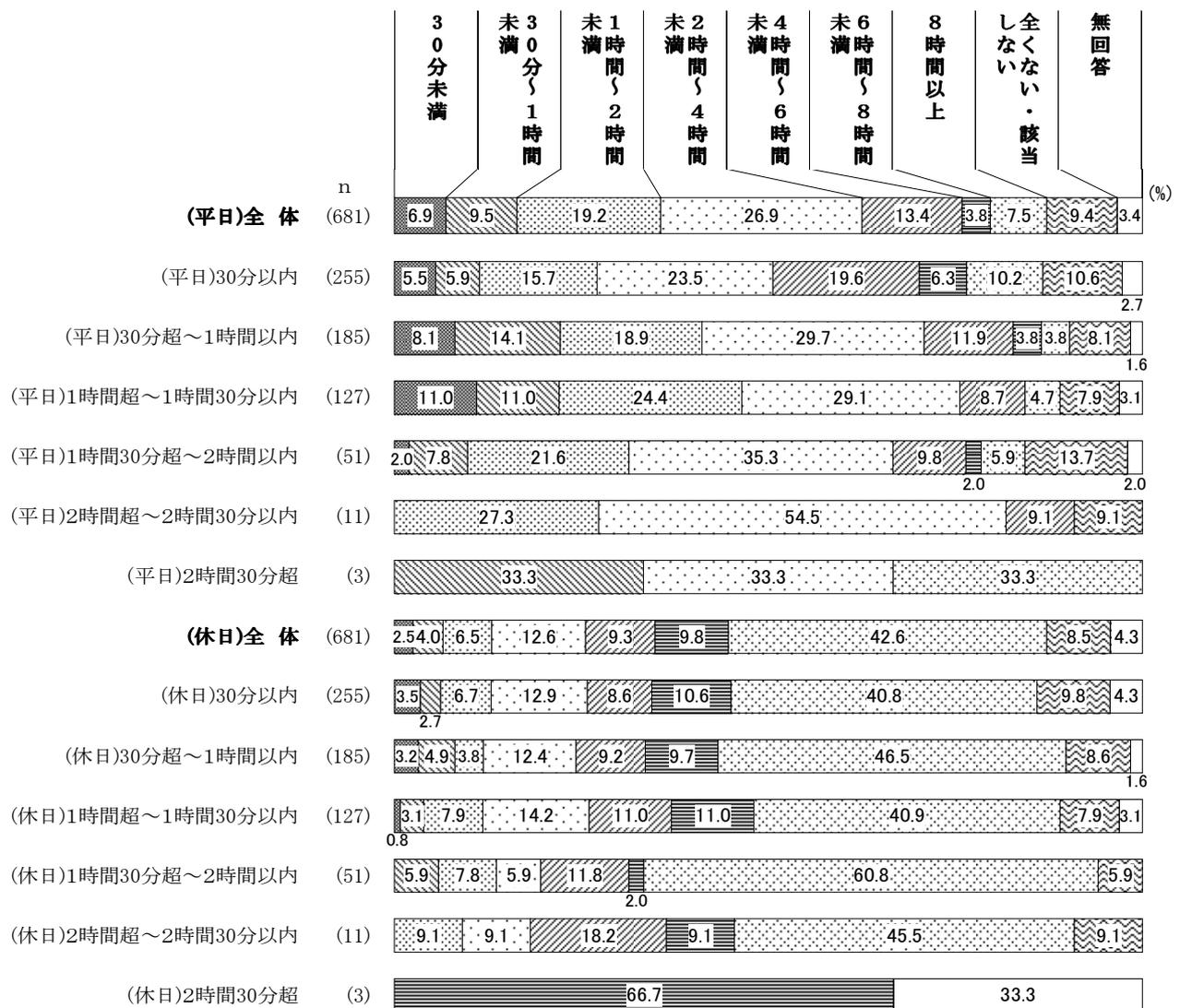


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

【家族と一緒に過ごす時間】についてみると、平日では、30分超～1時間以内、1時間超～1時間30分以内では、「2時間～4時間未満」が、それぞれ29.7%、29.1%と3割近くを占めている。休日では、1時間30分超～2時間以内で、「8時間以上」が60.8%と高くなっている。(図表2-14)

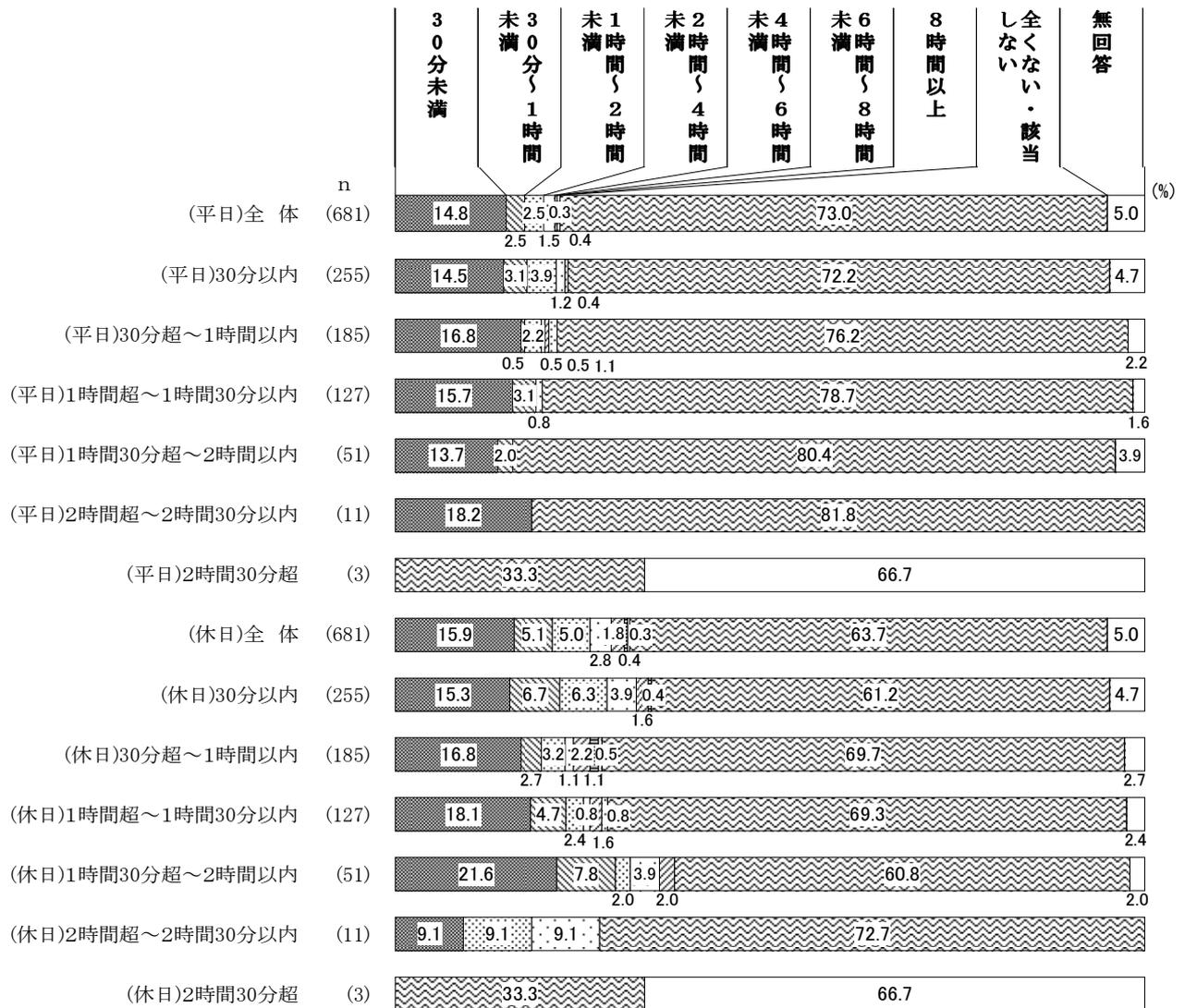
図表2-14 生活時間—家族と一緒に過ごす時間（通勤・通学時間別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【地域活動やボランティア】についてみると、平日では、時間による大きな差は見られない。休日では、1時間30分超～2時間以内で、「30分未満」が21.6%と、唯一2割台となっている。(図表2-15)

図表2-15 生活時間—地域活動やボランティア（通勤・通学時間別）



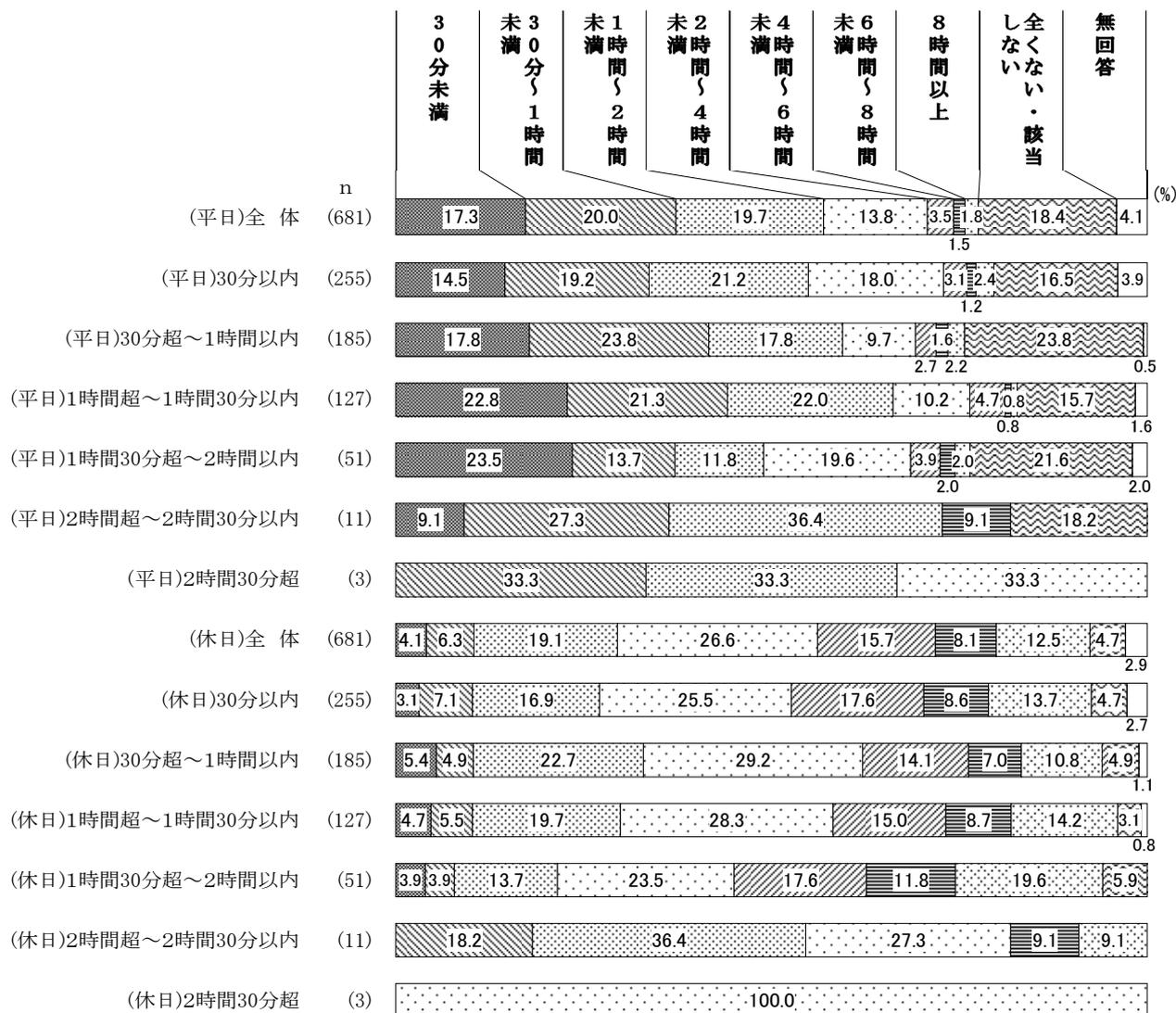
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

【余暇や娯楽】についてみると、平日では、1時間超～1時間30分以内、1時間30分超～2時間以内では、「30分未満」が、それぞれ22.8%、23.5%と2割を超えている。

休日では、1時間30分超～2時間以内で、「6時間～8時間未満」が11.8%、「8時間以上」が19.6%と、他の層より高くなっている。(図表2-16)

図表2-16 生活時間—余暇や娯楽（通勤・通学時間別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

居住地域別で【家事全般】をみると、平日では、さいたま地域、利根地域で「30分未満」が、それぞれ36.9%、37.5%と高くなっている。

休日では、南部地域、さいたま地域で、「1時間～2時間未満」が、それぞれ25.5%、27.4%とやや高くなっている。(図表2-17)

図表2-17 生活時間—家事全般（居住地域別）

(%)

		n	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間以上	全くない・該当しない	無回答
平日 ／ 居住地域別	全体	1,012	30.8	20.9	16.1	7.5	2.1	1.2	1.0	15.7	4.6
	南部地域	98	32.7	22.4	14.3	12.2	-	2.0	2.0	12.2	2.0
	南西部地域	90	25.6	25.6	20.0	8.9	1.1	1.1	-	14.4	3.3
	東部地域	156	28.2	23.1	17.9	3.2	3.2	1.9	1.3	15.4	5.8
	さいたま地域	168	36.9	17.9	14.9	8.9	1.2	-	1.2	17.9	1.2
	県央地域	64	31.3	18.8	14.1	9.4	1.6	1.6	1.6	18.8	3.1
	川越比企地域	117	35.0	14.5	12.8	8.5	2.6	1.7	-	15.4	9.4
	西部地域	107	24.3	26.2	15.9	8.4	5.6	1.9	-	12.1	5.6
	利根地域	88	37.5	17.0	13.6	4.5	2.3	-	1.1	20.5	3.4
	北部地域	76	26.3	25.0	19.7	5.3	1.3	1.3	1.3	13.2	6.6
	秩父地域	12	25.0	16.7	16.7	8.3	-	-	-	25.0	8.3
休日 ／ 居住地域別	全体	1,012	17.1	24.2	21.7	12.6	4.9	1.1	1.5	10.8	6.0
	南部地域	98	17.3	22.4	25.5	12.2	6.1	-	4.1	9.2	3.1
	南西部地域	90	12.2	28.9	22.2	12.2	7.8	-	-	11.1	5.6
	東部地域	156	19.9	19.2	23.1	10.3	6.4	0.6	3.2	10.3	7.1
	さいたま地域	168	14.9	24.4	27.4	12.5	4.2	1.2	1.8	10.1	3.6
	県央地域	64	18.8	21.9	18.8	17.2	4.7	1.6	-	12.5	4.7
	川越比企地域	117	19.7	19.7	19.7	13.7	3.4	2.6	0.9	12.0	8.5
	西部地域	107	17.8	23.4	18.7	15.9	6.5	0.9	-	9.3	7.5
	利根地域	88	21.6	30.7	14.8	12.5	3.4	2.3	1.1	10.2	3.4
	北部地域	76	14.5	26.3	23.7	11.8	1.3	1.3	1.3	11.8	7.9
	秩父地域	12	16.7	33.3	8.3	16.7	-	-	-	16.7	8.3

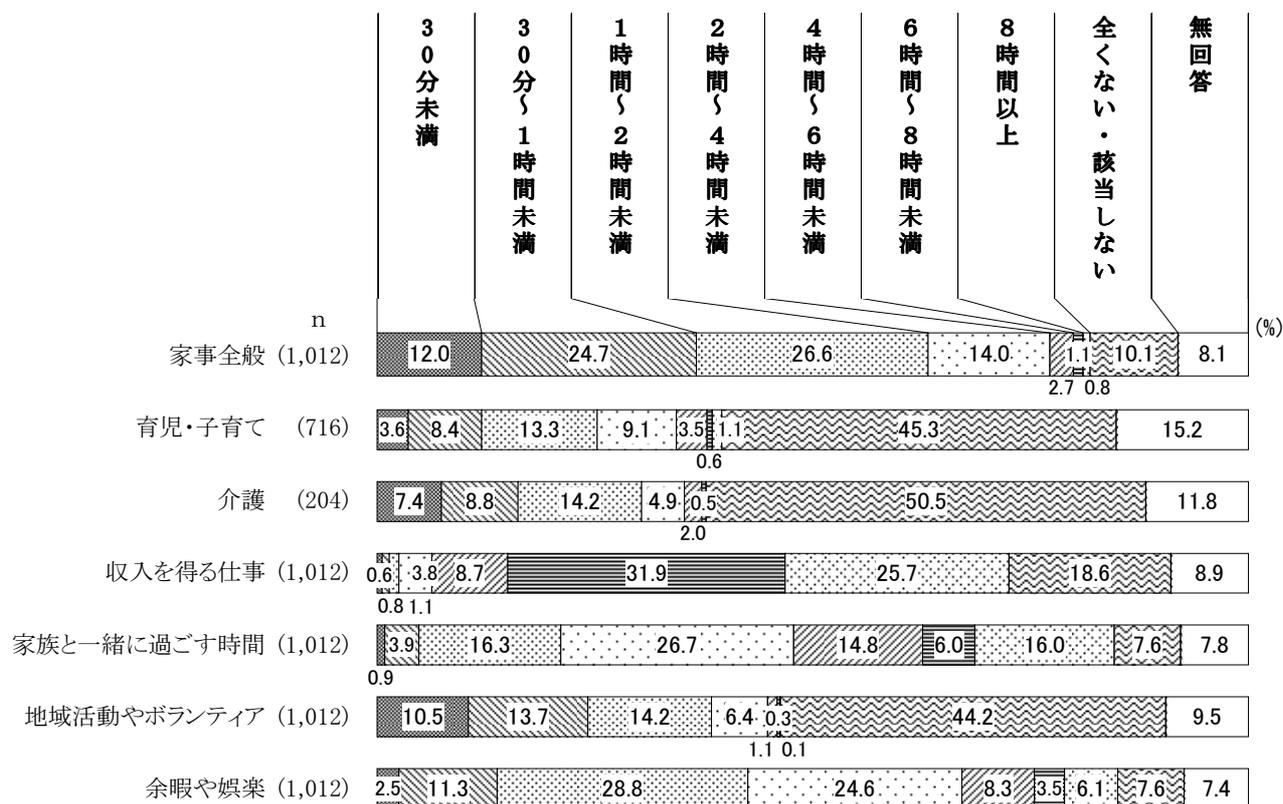
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(2) 理想の生活時間

問4 それでは、あなたの理想はいかがですか。以下の活動について、一日に費やす望ましい時間はどのくらいですか。(それぞれについて該当する「1～8」に○を1つ)

■ 平日

図表2-18 理想の生活時間〔平日〕



※【育児・子育て】【介護】は該当者のみ

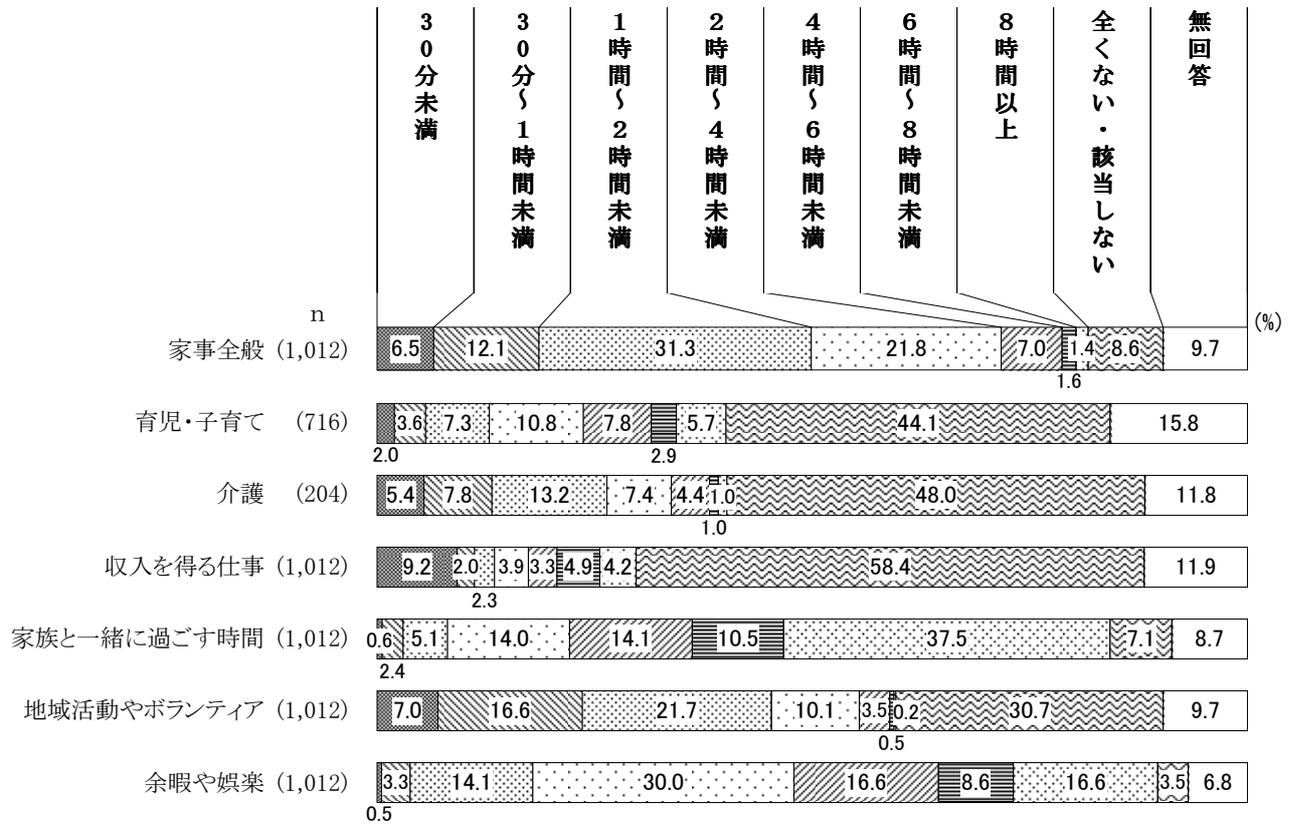
問3 であげた計7項目の活動について、それぞれ1日にどの程度費やすのが理想かを、平日と休日に分けてきた。

平日では、【家事全般】は「1時間～2時間未満」(26.6%)と「30分～1時間未満」(24.7%)が、【家族と一緒に過ごす時間】は「2時間～4時間未満」(26.7%)が高くなっている。

また、【収入を得る仕事】は「6時間～8時間未満」が31.9%、【余暇や娯楽】は「1時間～2時間未満」が28.8%と、3割前後を占めて高くなっている。(図表2-18)

■ 休日

図表 2-19 理想の生活時間〔休日〕



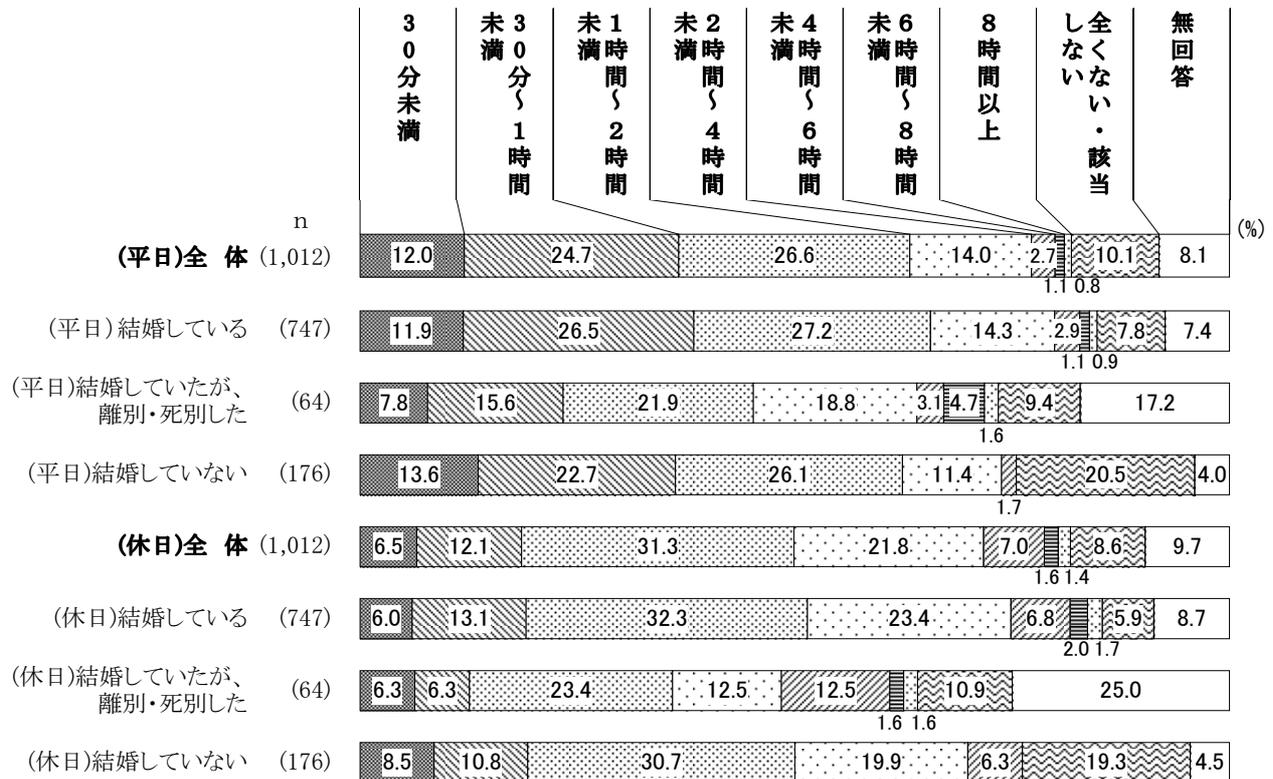
※【育児・子育て】【介護】は該当者のみ

休日では、【家事全般】は「1時間～2時間未満」(31.3%)、【家族と一緒に過ごす時間】は「8時間以上」(37.5%)、【余暇や娯楽】は「2時間～4時間未満」(30.0%)で3割を超え高くなっている。(図表 2-19)

理想の生活時間について、未既婚別でみた。

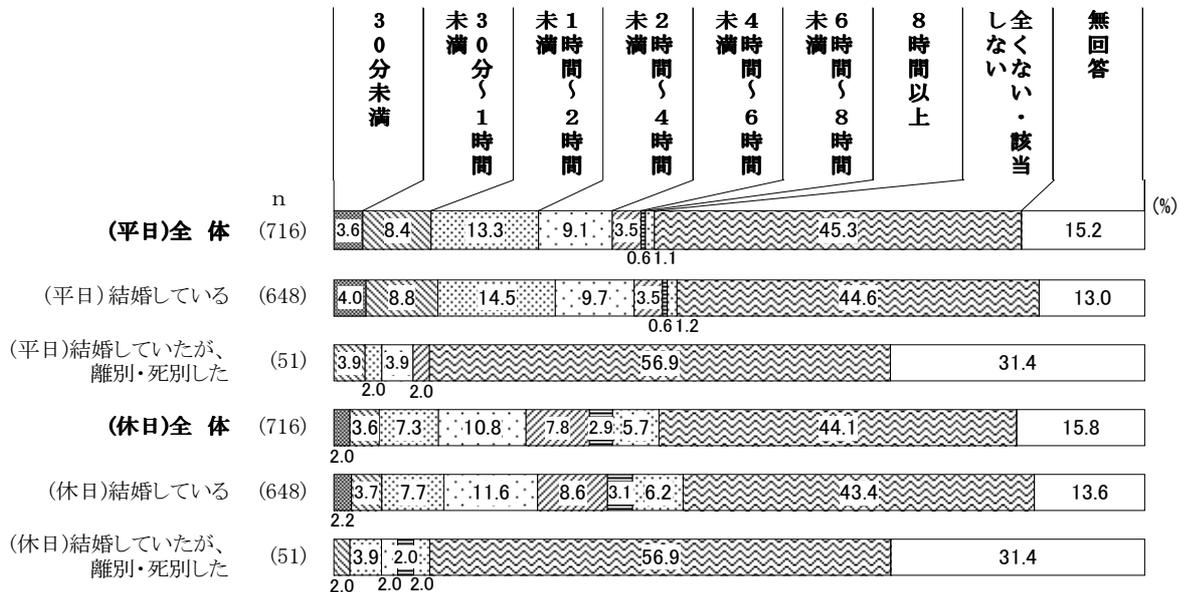
【家事全般】についてみると、「平日」は、結婚している人、結婚していない人とも、「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」が高くなっているが、「休日」になると、結婚している人では《2時間以上》が、結婚していない人に比べて高くなっている。(図表2-20)

図表2-20 理想の生活時間—家事全般（未既婚別）



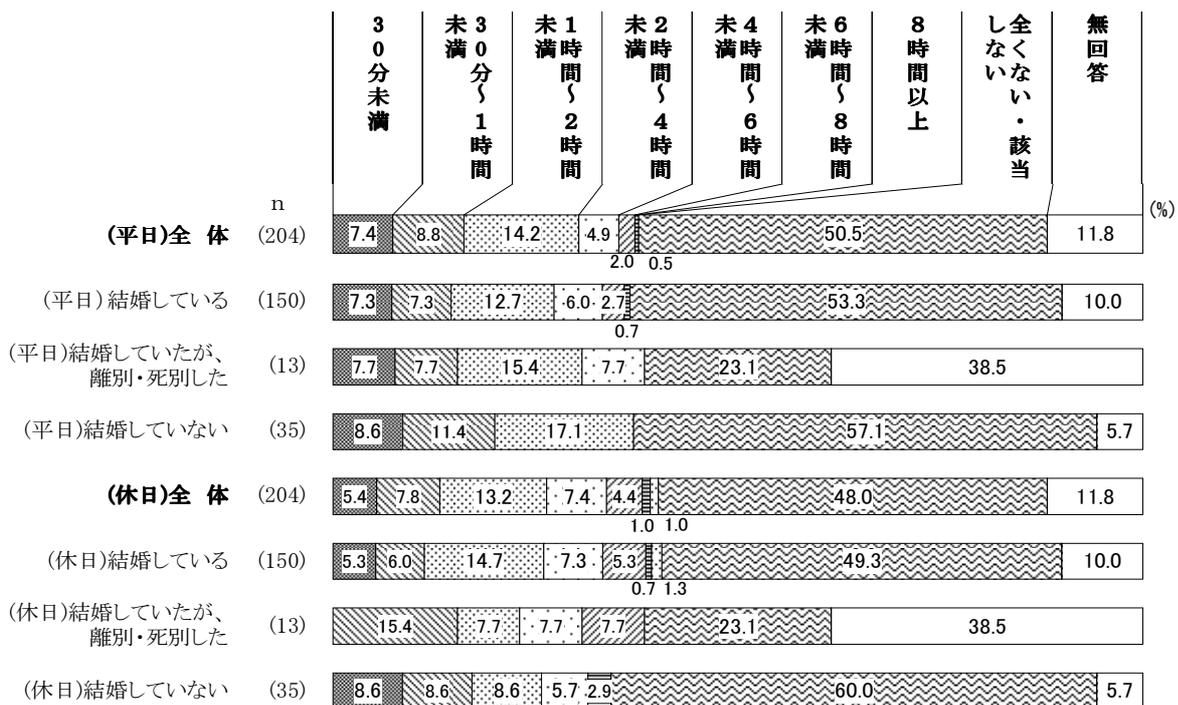
【育児・子育て】についてみると、「平日」は、結婚している人では「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」「2時間～4時間未満」が高くなっているが、「休日」になると《2時間以上》が高くなっている。(図表2-21)

図表2-21 理想の生活時間—育児・子育て（未既婚別）



【介護】についてみると、「平日」、「休日」とも、結婚している人、結婚していない人とも「1時間～2時間未満」が、他の時間よりやや高くなっている。(図表2-22)

図表2-22 理想の生活時間—介護（未既婚別）

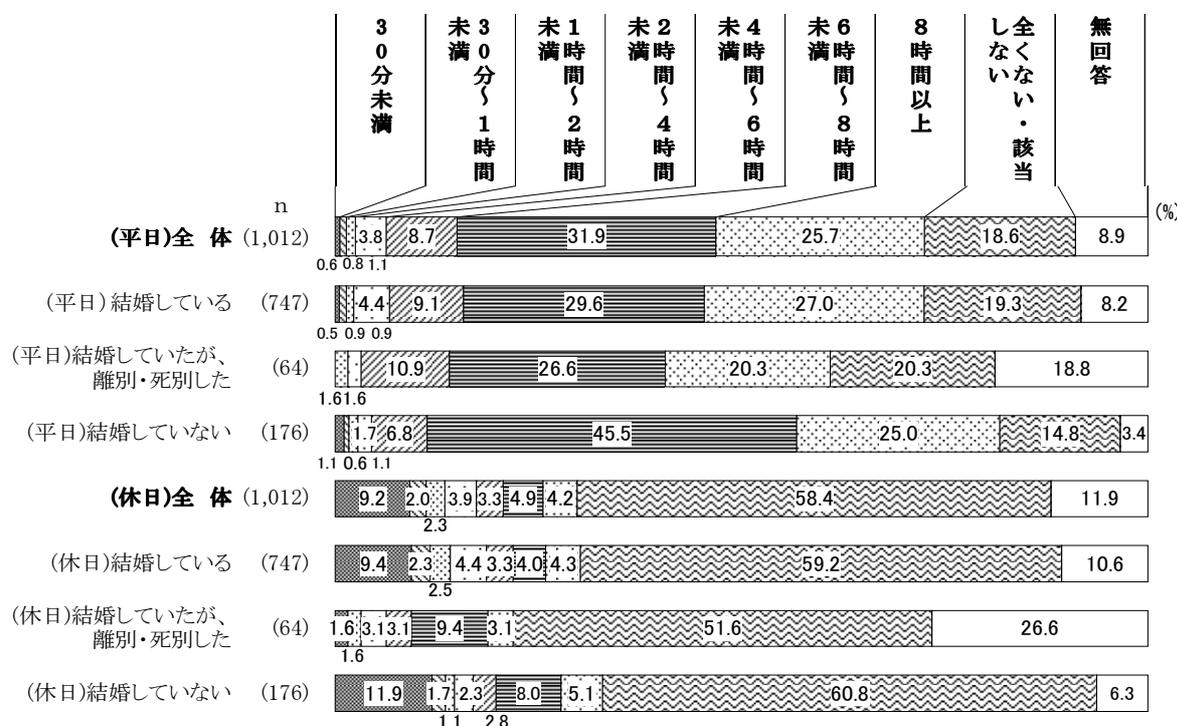


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【収入を得る仕事】についてみると、「平日」は、結婚していない人では「6時間～8時間未満」が45.5%と、結婚している人（29.6%）を上回っている。

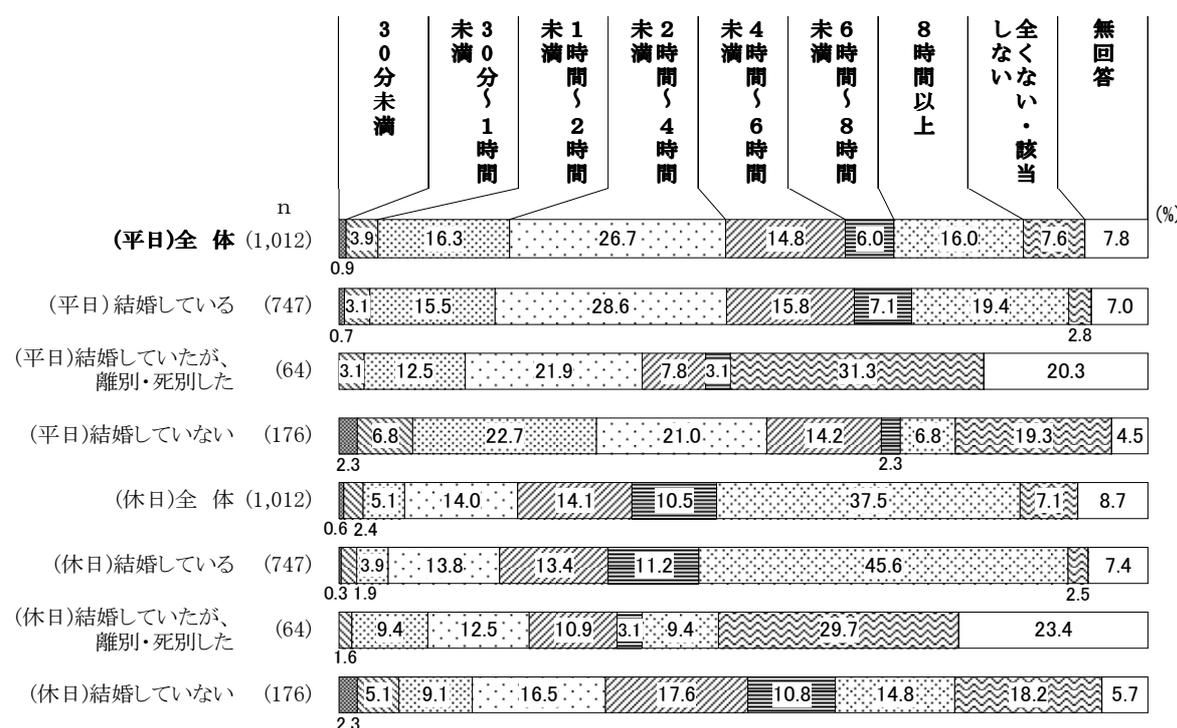
「休日」については、結婚している人、結婚していない人とも、働くという人は4割となっている。（図表2-23）

図表2-23 理想の生活時間—収入を得る仕事（未既婚別）



【家族と一緒に過ごす時間】についてみると、「平日」は、結婚している人では「2時間～4時間未満」(28.6%)が高くなっているが、「休日」になると「8時間以上」が45.6%と過半数を占めている。（図表2-24）

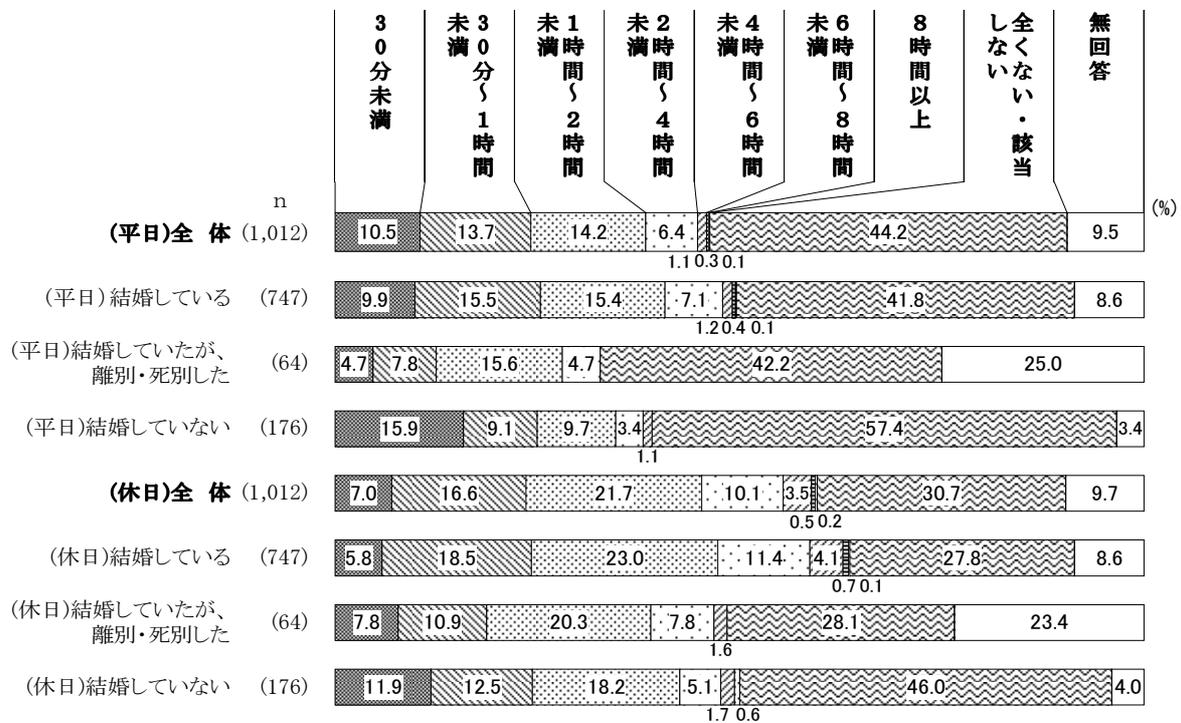
図表2-24 理想の生活時間—家族と一緒に過ごす時間（未既婚別）



【地域活動やボランティアに費やす時間】についてみると、「平日」、「休日」とも、結婚している人では「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」が高くなっている。

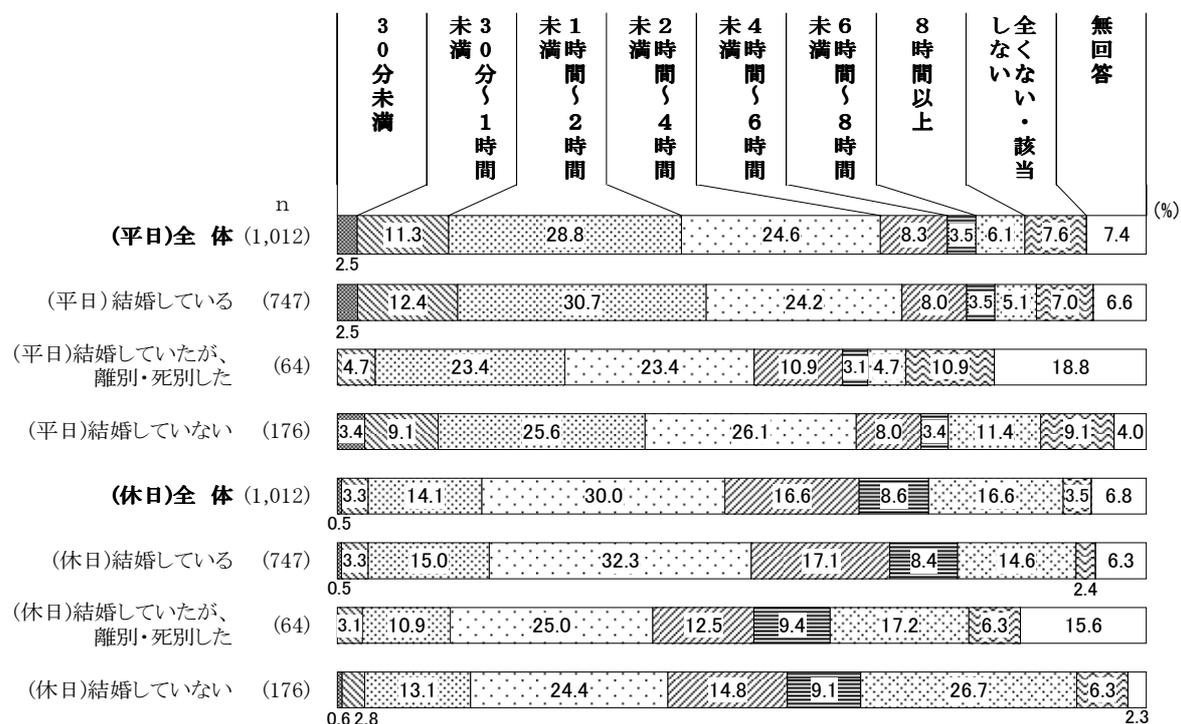
結婚していない人では、「平日」「休日」とも「30分未満」が、1割を超え、結婚している人よりやや高くなっている。(図表2-25)

図表2-25 理想の生活時間—地域活動やボランティアに費やす時間（未既婚別）



【余暇や娯楽】についてみると、「平日」は、結婚している人、結婚していない人とも「1時間～2時間未満」「2時間～4時間未満」が高くなっているが、「休日」になると、「4時間以上」が増加している。特に、結婚していない人では「8時間以上」が26.7%を占めている。(図表2-26)

図表2-26 理想の生活時間—余暇や娯楽（未既婚別）



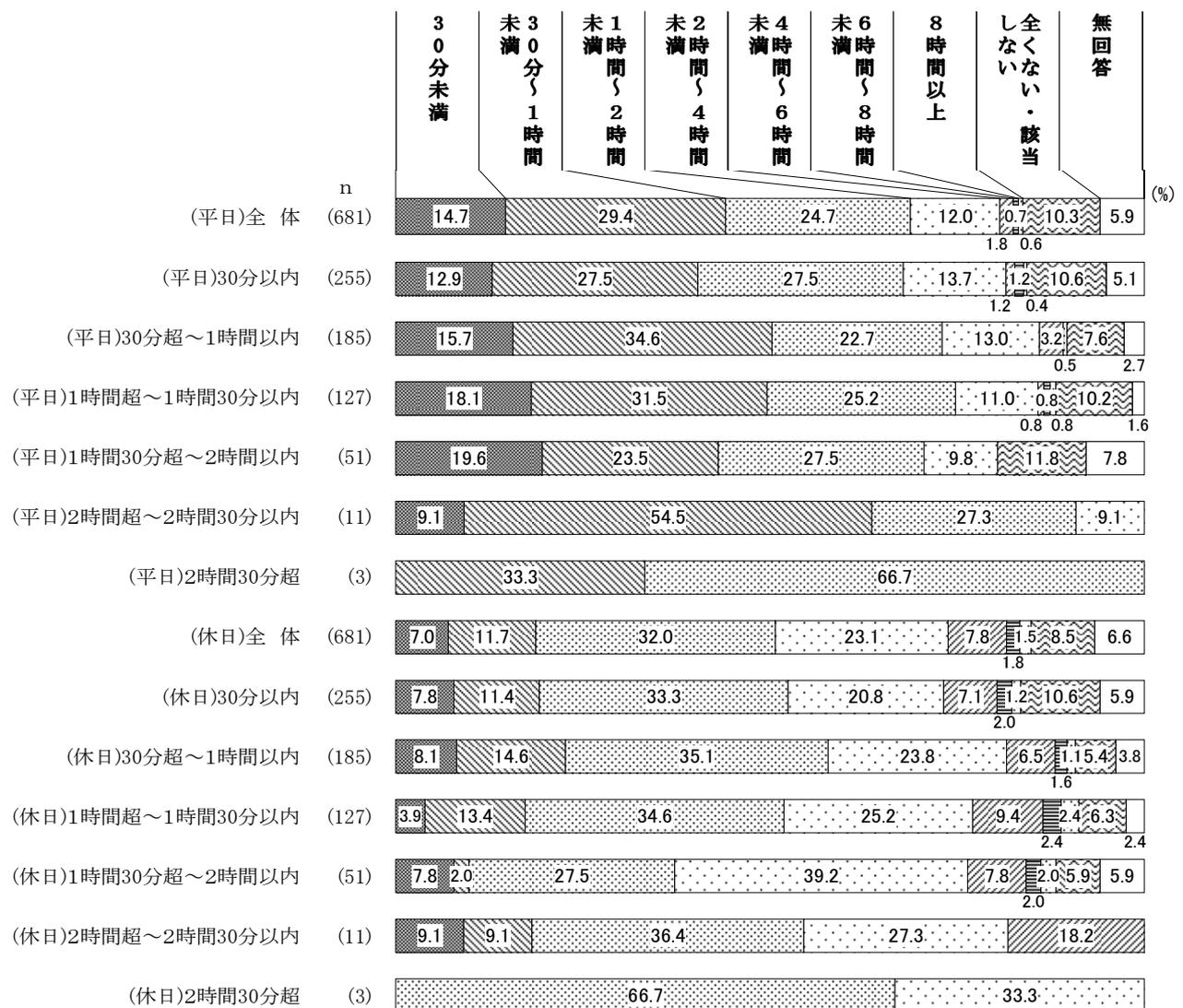
第IV章 調査の結果

理想の生活時間について、通勤・通学時間別でみた。

【家事全般】についてみると、平日では、30分超～1時間以内、1時間超～1時間30分超で、「30分～1時間未満」が、それぞれ34.6%、31.5%と高くなっている。

休日では、1時間30分超～2時間以内で、「2時間～4時間未満」が39.2%と高くなっている。
(図表2-27)

図表2-27 理想の生活時間—家事全般（通勤・通学時間別）

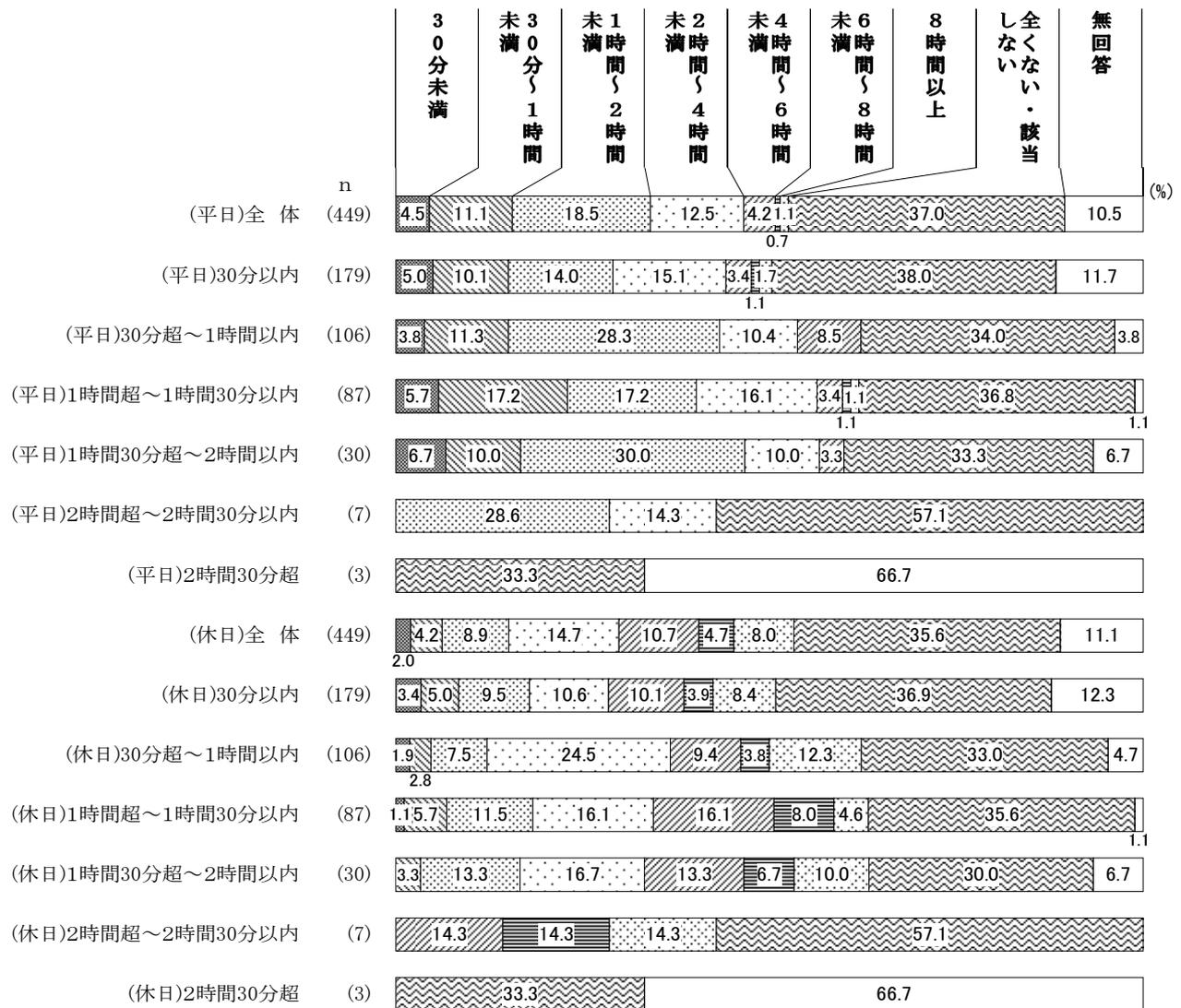


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【育児・子育て】についてみると、平日では、30分超～1時間以内、1時間30分超～2時間以内で、「1時間～2時間未満」が、それぞれ28.3%、30.0%と高くなっている。

休日では、30分超～1時間以内で、「2時間～4時間未満」が24.5%と高くなっている。(図表2-28)

図表2-28 理想の生活時間—育児・子育て（通勤・通学時間別）



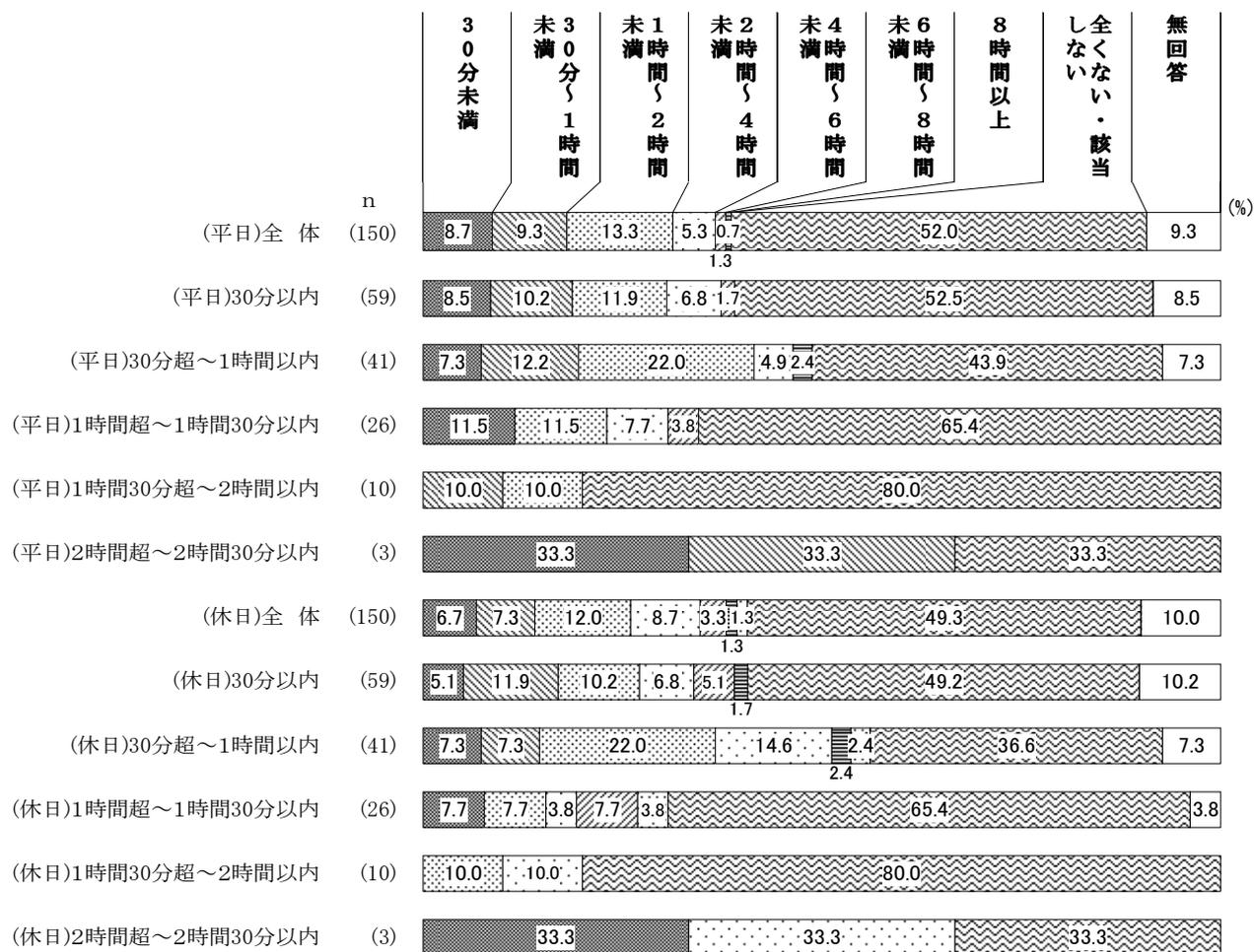
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【介護】についてみると、平日では、30分超～1時間以内で、「1時間～2時間未満」が22.0%と高くなっている。

また、休日でも、30分超～1時間以内で、「1時間～2時間未満」が22.0%と高くなっている。

(図表 2-29)

図表 2-29 理想の生活時間—介護（通勤・通学時間別）



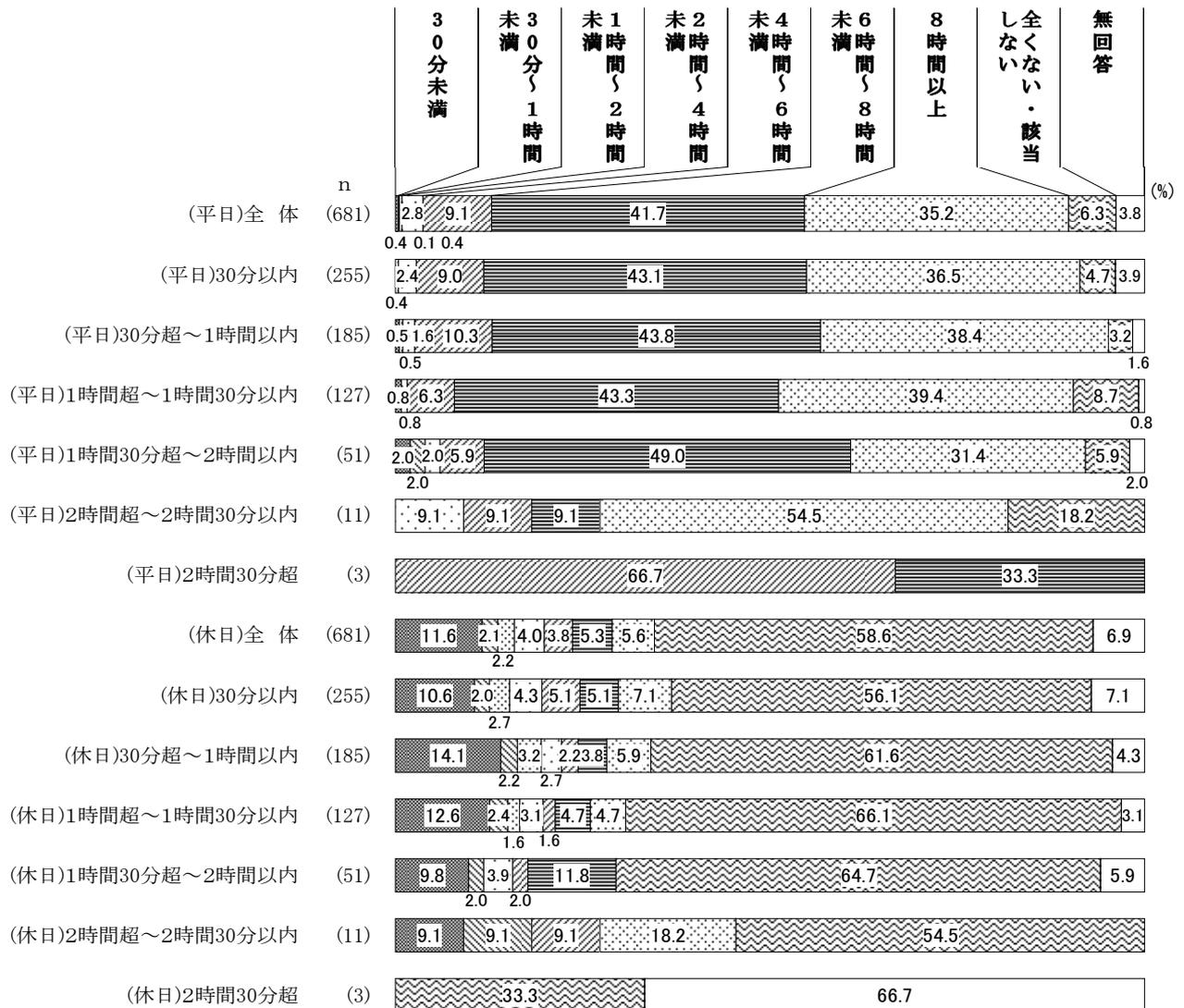
※ 2時間30分超は回答者なし

※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【収入を得る仕事】についてみると、平日では、《1時間30分以内》までの層で、「8時間以上」が、それぞれ36.5%、38.4%、39.4%と、3割台半ばを超えている。

休日では、1時間30分超～2時間以内で、「6時間～8時間未満」が11.8%と、他の層より高くなっている。(図表2-30)

図表2-30 理想の生活時間—収入を得る仕事（通勤・通学時間別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

【家族と一緒に過ごす時間】についてみると、平日では、1時間30分超～2時間以内で、「2時間～4時間未満」が39.2%と高くなっている。

休日では、30分超～1時間以内、1時間30分超～2時間以内で、「8時間以上」が、それぞれ48.1%、45.1%と高くなっている。(図表2-31)

図表2-31 理想の生活時間—家族と一緒に過ごす時間（通勤・通学時間別）



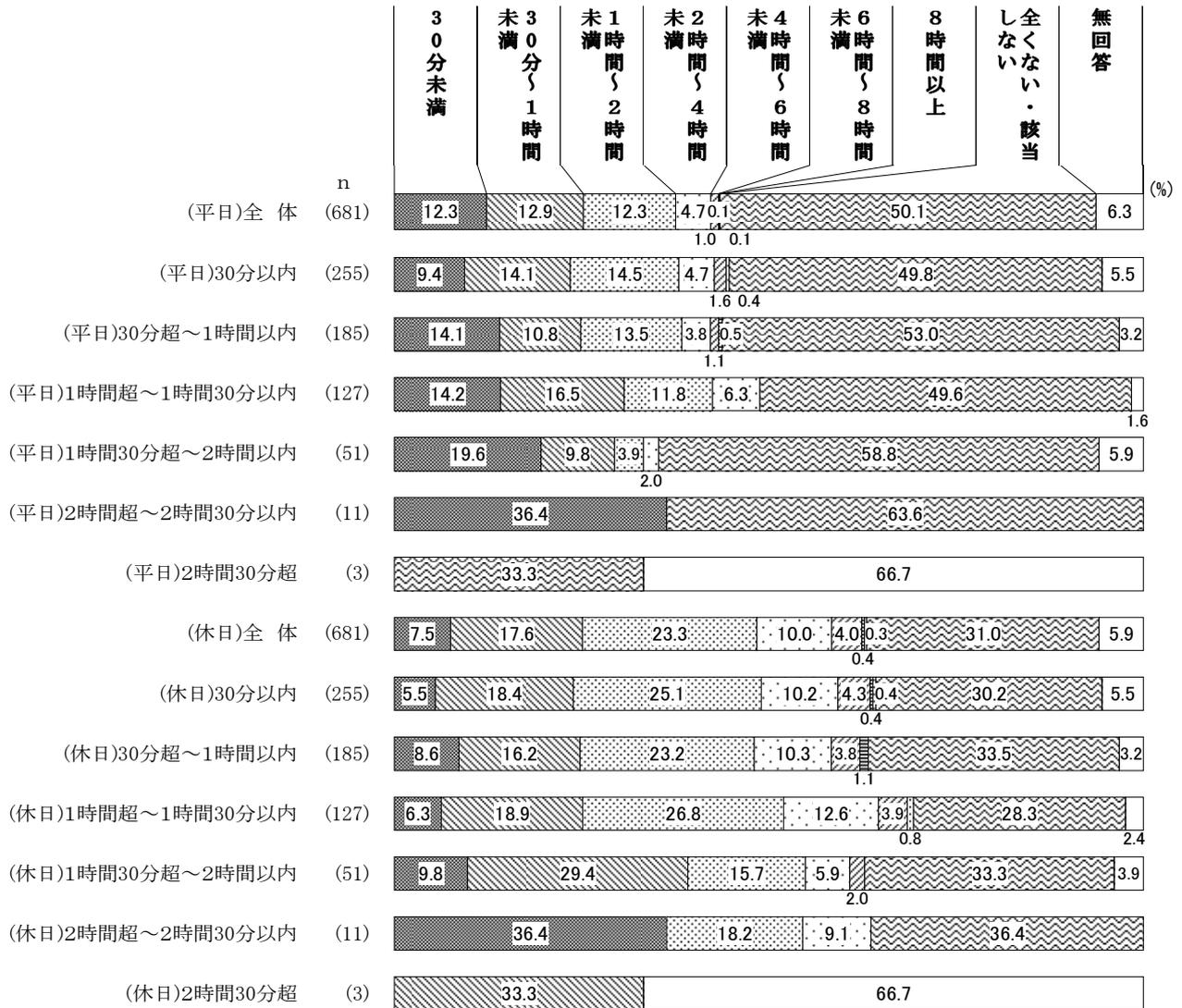
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【地域活動やボランティア】についてみると、平日では、1時間30分超～2時間以内で、「30分未満」が19.6%とやや高くなっている。

休日では、「30分～1時間未満」が29.4%と高くなっている。

(図表2-32)

図表2-32 理想の生活時間—地域活動やボランティア（通勤・通学時間別）



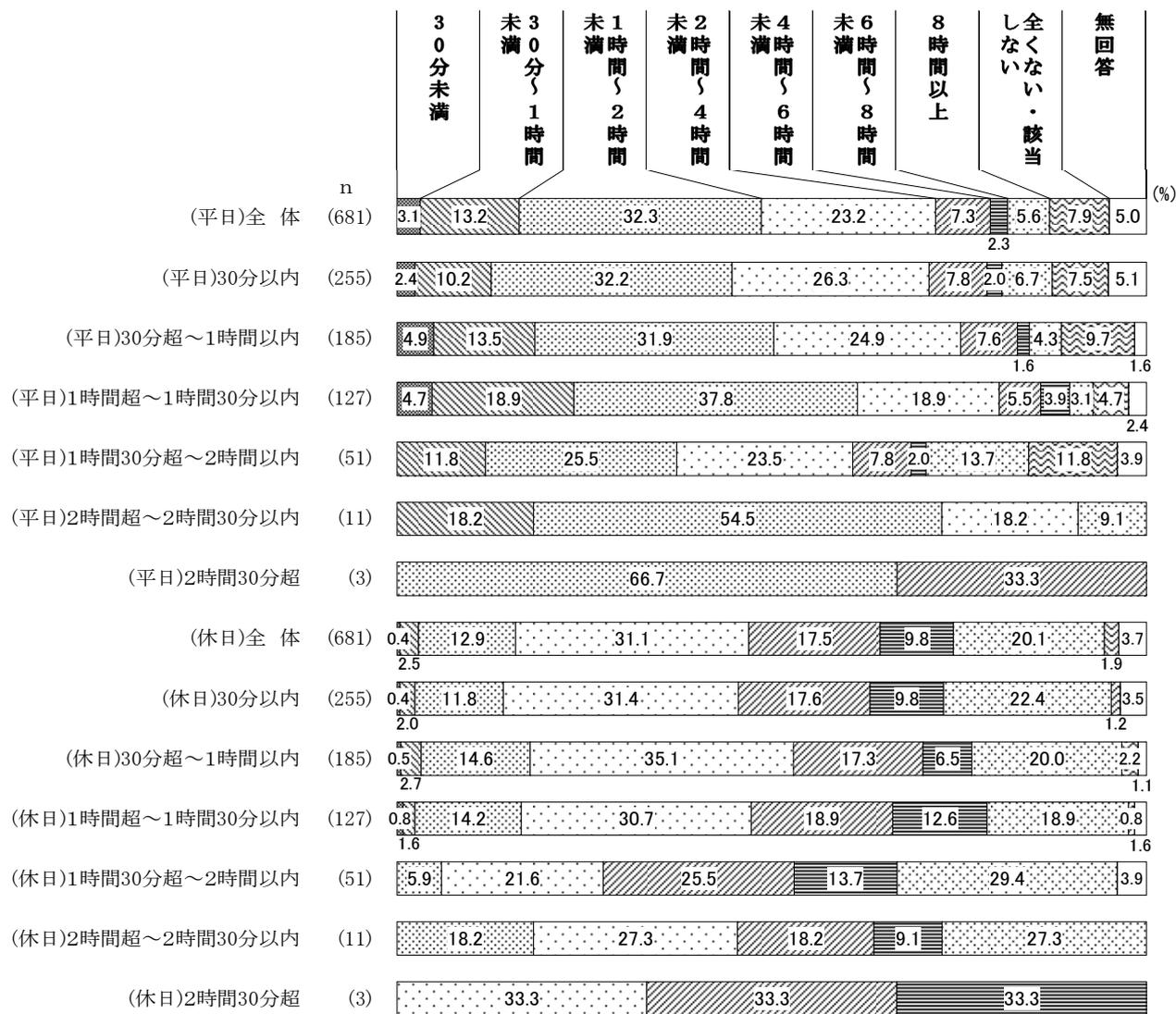
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

【余暇や娯楽】についてみると、平日では、1時間超～1時間30分以内で、「1時間～2時間未満」が37.8%と高くなっている。

休日では、1時間30分超～2時間以内で、「4時間～6時間未満」25.5%、「6時間～8時間未満」13.7%、「8時間以上」29.4%と、それぞれ他の層より高くなっている。(図表2-33)

図表2-33 理想の生活時間—余暇や娯楽（通勤・通学時間別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

居住地域別で【家事全般】をみると、平日では、南西部地域、さいたま地域で、「30分～1時間未満」が、それぞれ27.8%、28.0%と高くなっている。休日では、南部地域、南西部地域で、「1時間～2時間未満」が、それぞれ37.8%、35.6%とやや高くなっている。(図表2-34)

図表2-34 理想の生活時間—家事全般（居住地域別）

(%)

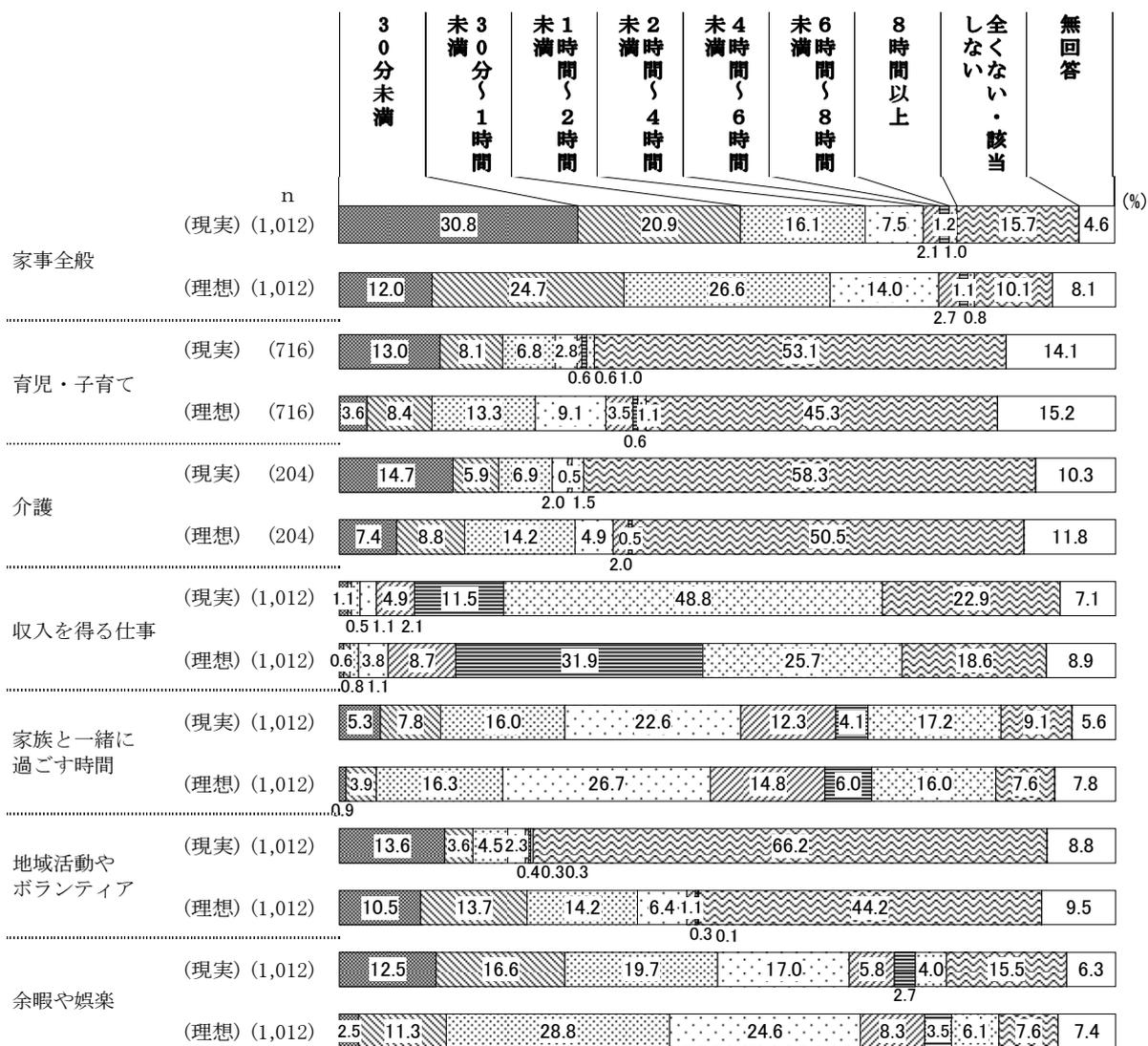
		n	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間以上	全くない・該当しない	無回答
平日／居住地域別	全体	1,012	12.0	24.7	26.6	14.0	2.7	1.1	0.8	10.1	8.1
	南部地域	98	16.3	22.4	29.6	13.3	2.0	1.0	1.0	7.1	7.1
	南西部地域	90	11.1	27.8	30.0	12.2	1.1	1.1	1.1	5.6	10.0
	東部地域	156	9.6	24.4	28.2	12.8	1.3	1.3	1.9	10.9	9.6
	さいたま地域	168	10.1	28.0	26.2	13.7	3.0	0.6	1.8	11.3	5.4
	県央地域	64	17.2	20.3	25.0	17.2	6.3	3.1	-	7.8	3.1
	川越比企地域	117	10.3	27.4	23.9	15.4	0.9	1.7	-	9.4	11.1
	西部地域	107	10.3	23.4	26.2	12.1	4.7	0.9	-	12.1	10.3
	利根地域	88	17.0	22.7	26.1	18.2	2.3	-	-	10.2	3.4
	北部地域	76	11.8	21.1	30.3	11.8	3.9	1.3	-	10.5	9.2
	秩父地域	12	16.7	16.7	25.0	8.3	-	-	-	16.7	16.7
休日／居住地域別	全体	1,012	6.5	12.1	31.3	21.8	7.0	1.6	1.4	8.6	9.7
	南部地域	98	9.2	11.2	37.8	17.3	6.1	1.0	3.1	5.1	9.2
	南西部地域	90	3.3	11.1	35.6	25.6	5.6	-	1.1	5.6	12.2
	東部地域	156	7.7	10.9	26.9	26.9	3.8	1.3	1.9	10.3	10.3
	さいたま地域	168	2.4	11.3	35.1	19.6	7.7	2.4	3.6	10.1	7.7
	県央地域	64	7.8	15.6	32.8	15.6	15.6	-	-	6.3	6.3
	川越比企地域	117	6.8	13.7	24.8	22.2	7.7	2.6	0.9	9.4	12.0
	西部地域	107	7.5	11.2	28.0	19.6	8.4	0.9	-	11.2	13.1
	利根地域	88	8.0	11.4	37.5	28.4	8.0	1.1	-	3.4	2.3
	北部地域	76	6.6	14.5	34.2	18.4	2.6	5.3	-	9.2	9.2
	秩父地域	12	16.7	8.3	33.3	8.3	-	-	-	16.7	16.7

※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

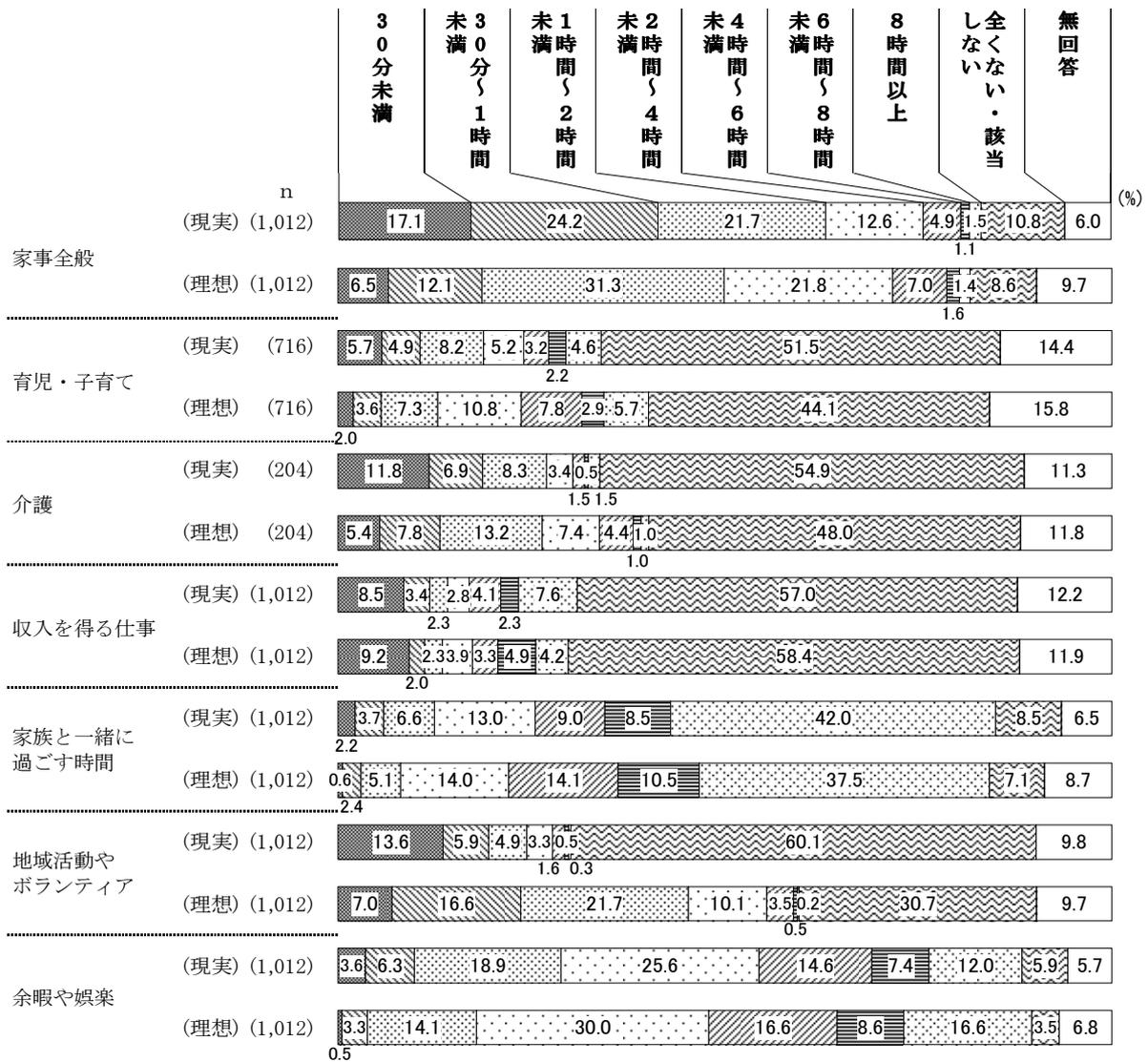
現実と理想を比較すると、平日では、【家事全般】で、《30分～2時間未満》が、現実37.0%に対して、理想51.3%となっているのをはじめとして、ほぼすべての項目で、理想の時間が現実を上回っている。(図表2-35)

図表2-35 現実と理想の生活時間の比較（平日）



休日では、【家事全般】や【地域活動やボランティア】では、理想の時間が現実を大きく上回っている。(図表2-36)

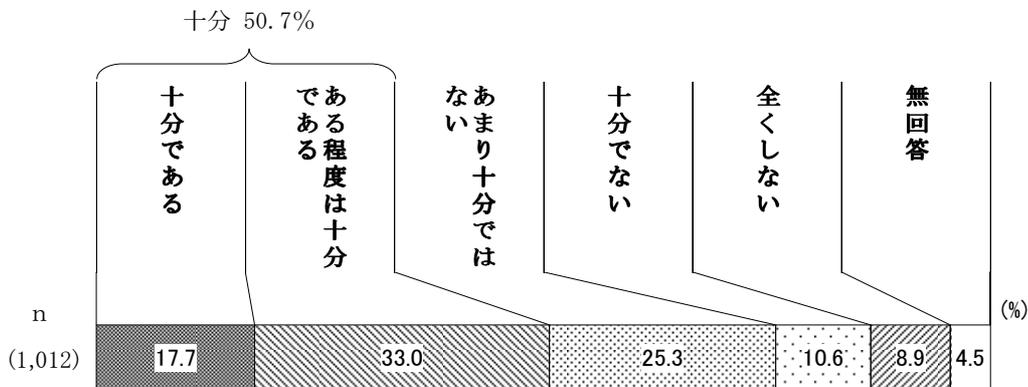
図表2-36 現実と理想の生活時間の比較(休日)



(3) 「家事全般」へのかかわり

問5 「家事全般」について、かかわりは十分だと思いますか。(〇は1つ)

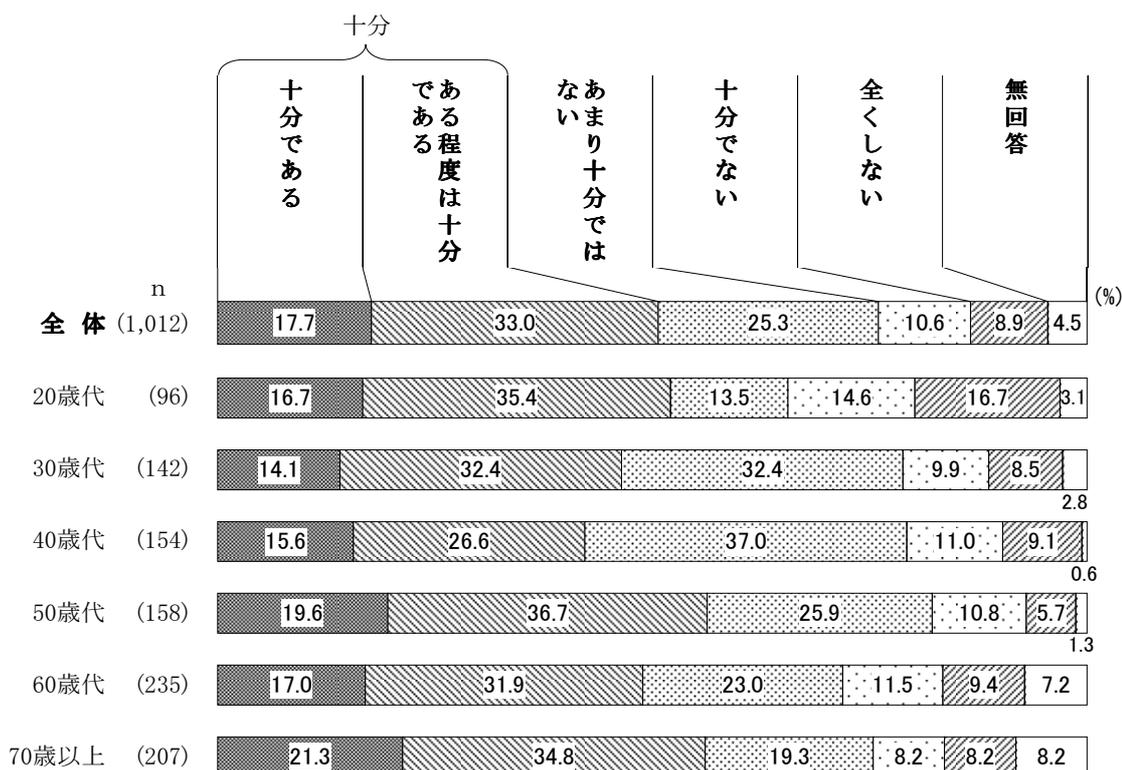
図表2-37 「家事全般」へのかかわり(全体)



〈家事全般〉へのかかわりについては、「十分である」が17.7%で、これに「ある程度は十分である」(33.0%)を合わせた《十分》は50.7%と過半数を占めている。一方、「あまり十分ではない」は25.3%、「十分でない」は10.6%となっている。(図表2-37)

年齢別でみると、20歳代、50歳代、70歳以上では《十分》が5割を超えて、他の年代より高くなっている。(図表2-38)

図表2-38 「家事全般」へのかかわり(年齢別)



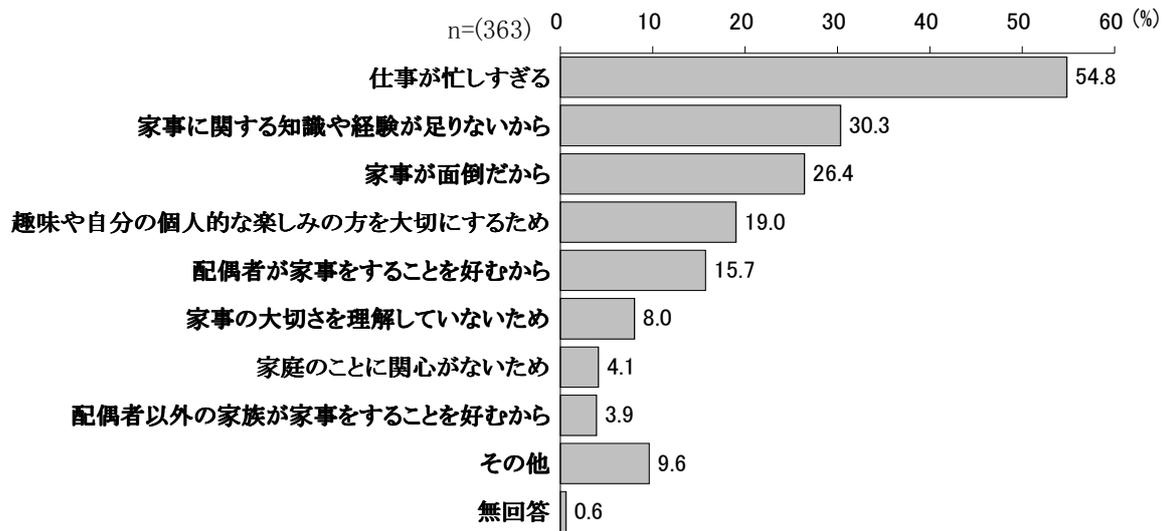
(4) 「家事全般」へのかかわりが十分でない原因

問5で「3. あまり十分ではない」「4. 十分でない」とお答えの方にかかっています

問5-1 「家事全般」へのかかわりが十分でないのは何か原因があると思いますか。

(○は3つまで)

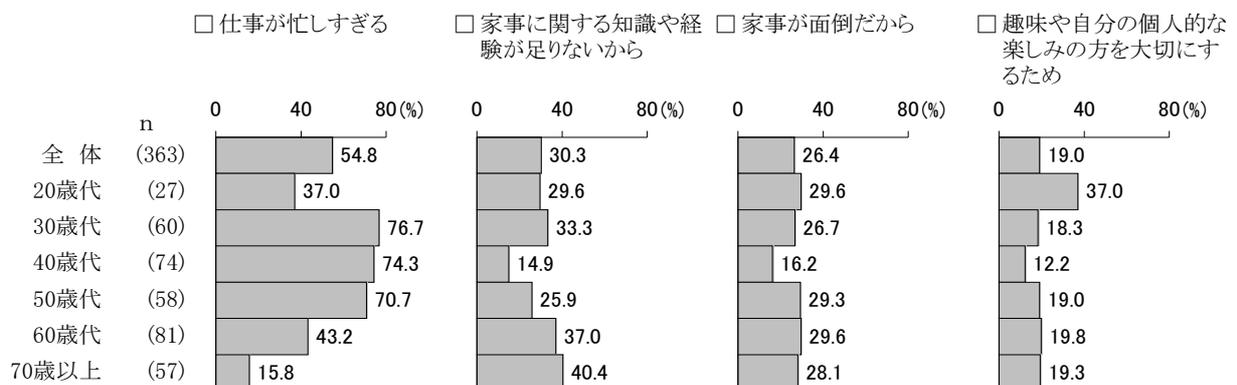
図表2-39 「家事全般」へのかかわりが十分でない原因 (全体)



家事全般へのかかわりが「あまり十分ではない」「十分でない」という人に、その原因を聞いたところ、「仕事が忙しすぎる」が54.8%で最も高く、以下「家事に関する知識や経験が足りないから」(30.3%)、「家事が面倒だから」(26.4%)の順で続いている。(図表2-39)

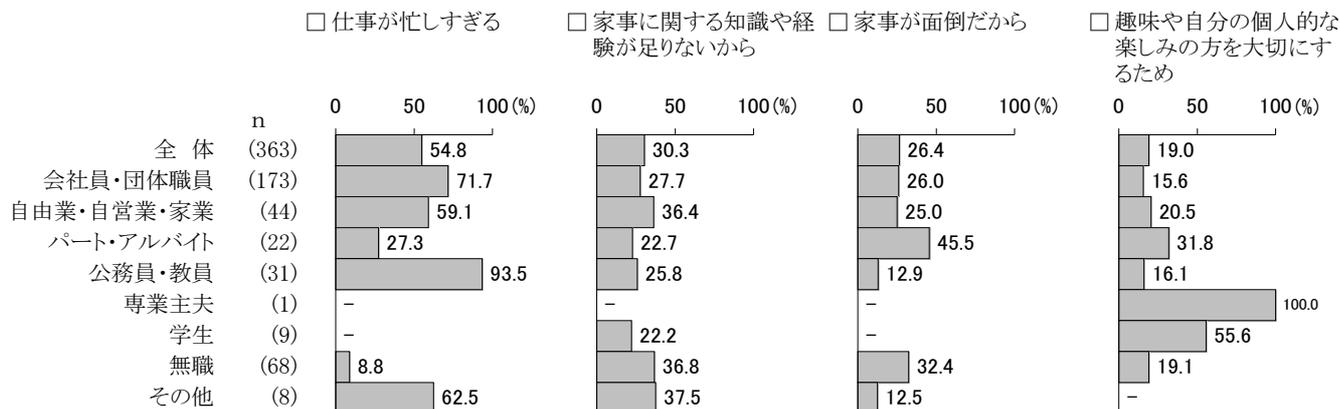
年齢別でみると、30歳代、40歳代、50歳代では「仕事が忙しすぎる」が、いずれの年代も7割を超えている。また、20歳代では「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にする」が37.0%と、他の年代より高くなっている。一方、60歳代、70歳以上では「家事に関する知識や経験が足りないから」が、それぞれ37.0%、40.4%と高くなっている。(図表2-40)

図表2-40 「家事全般」へのかかわりが十分でない原因 (年齢別 上位4項目)



職業別でみると、公務員・教員では「仕事が忙しすぎる」が93.5%を占めているほか、会社員・団体職員でも71.7%と高くなっている。また、自由業・自営業・家業、無職では、「家事に対する知識や経験が足りないから」が、それぞれ36.4%、36.8%と他の層より高くなっている。(図表2-41)

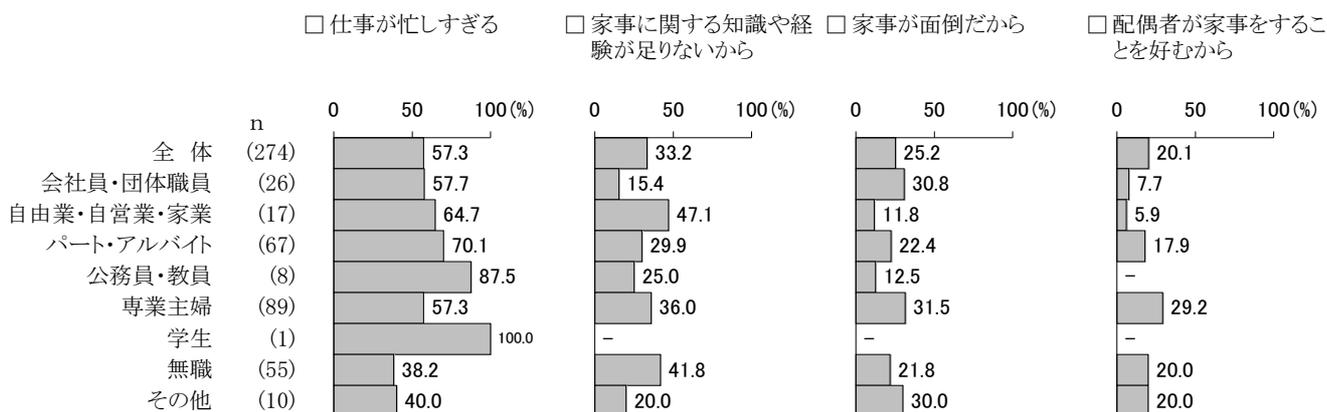
図表2-41 「家事全般」へのかかわりが十分でない原因(職業別 上位4項目)



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

配偶者の職業別でみると、パート・アルバイトでは「仕事が忙しすぎる」が70.1%で高くなっている。また、会社員・団体職員では「家事が面倒だから」が30.8%、無職では「家事に関する知識や経験が足りないから」が41.8%と高くなっている。(図表2-42)

図表2-42 「家事全般」へのかかわりが十分でない原因(配偶者の職業別 上位4項目)

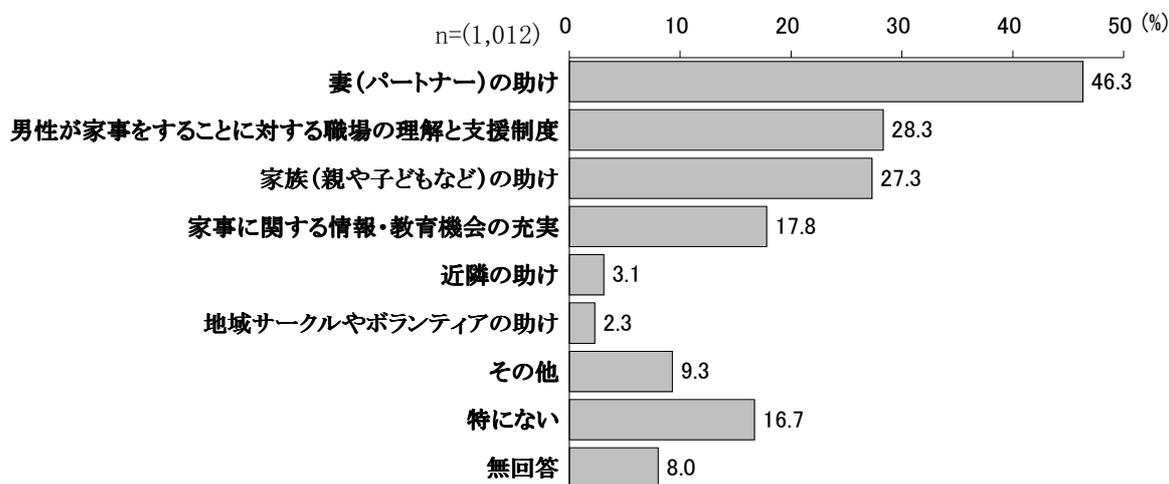


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(5) 男性が家事に参加するために必要なこと

問6 あなたは男性が炊事・洗濯・掃除などの家事に参加するために、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

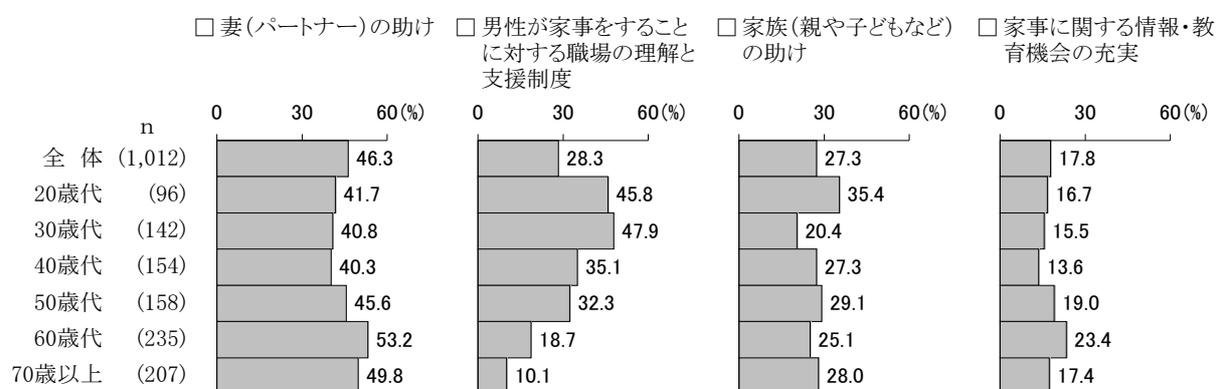
図表2-43 男性が家事に参加するために必要なこと (全体)



男性が炊事・洗濯・掃除などの家事に参加するために必要なこととしては、「妻（パートナー）の助け」が46.3%で最も高く、以下「男性が家事をすることに對する職場の理解と支援制度」（28.3%）、「家族（親や子どもなど）の助け」（27.3%）の順で続いている。（図表2-43）

年齢別でみると、20歳代、30歳代では、「男性が家事をすることに對する職場の理解と支援制度」が、それぞれ45.8%、47.9%と他の年代より高くなっている。一方、60歳代、70歳以上になると、「妻（パートナー）の助け」が、それぞれ53.2%、49.8%と5割前後を占めて高くなっている。（図表2-44）

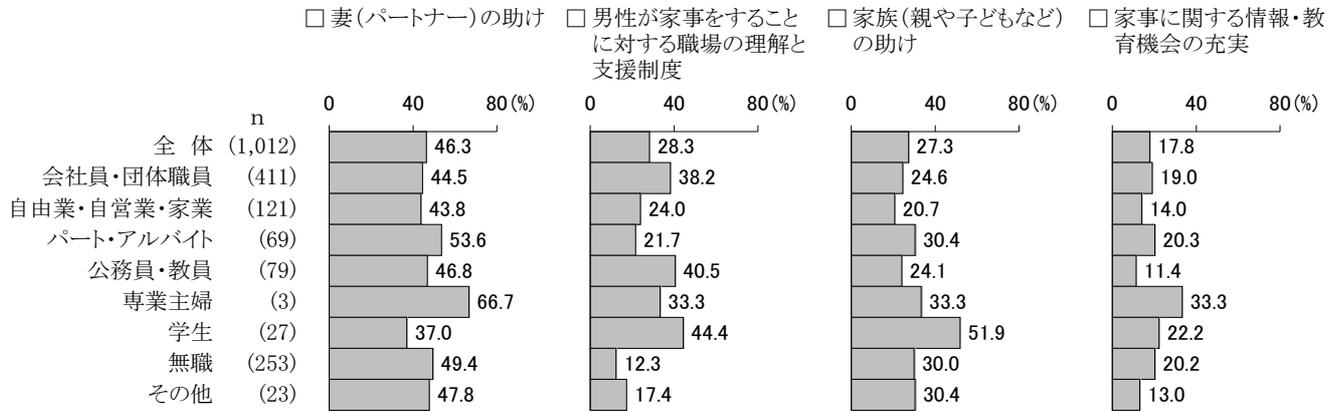
図表2-44 男性が家事に参加するために必要なこと (年齢別 上位4項目)



第IV章 調査の結果

職業別でみると、公務員・教員、会社員・団体職員では、「男性が家事をすることに対する職場の理解と支援制度」が、それぞれ40.5%、38.2%と4割前後占め、他の層より高くなっている。
(図表2-45)

図表2-45 男性が家事に参加するために必要なこと（職業別 上位4項目）



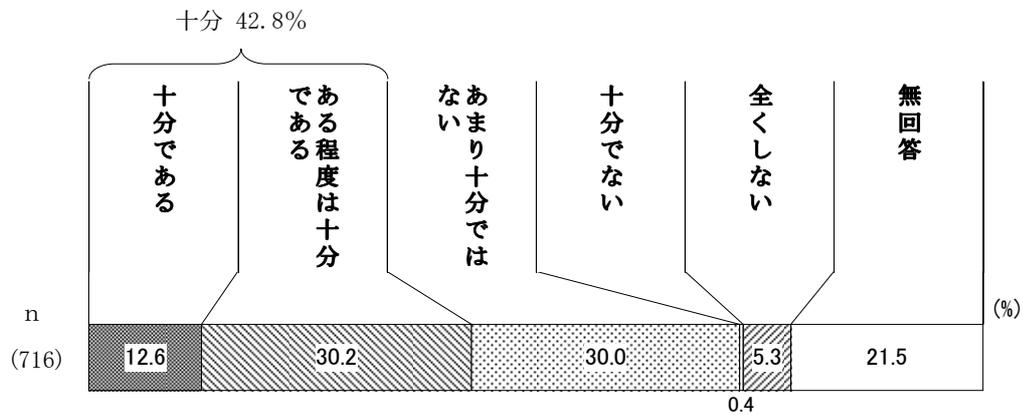
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(6)「育児」へのかかわり

子育て経験のある方のみにかがいます

問7 「育児」について、かかわりは十分だと思いますか。(○は1つ)

図表2-46 「育児」へのかかわり(全体)

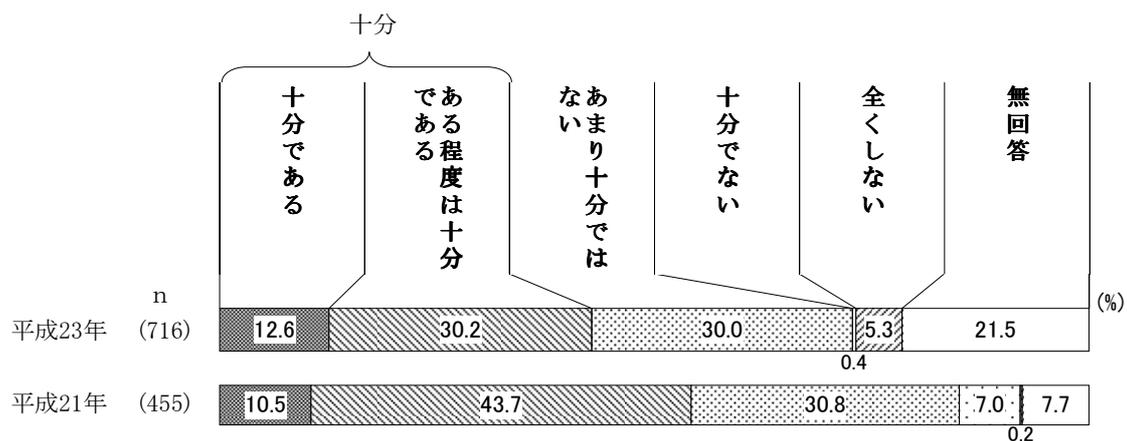


〈育児〉へのかかわりについては、「十分である」が12.6%で、これに「ある程度は十分である」(30.2%)を合わせた《十分》は42.8%となっている。一方、「あまり十分ではない」は30.0%、「十分でない」は0.4%となっている。(図表2-46)

前回の平成22年度調査は対象を男女としているため、男性回答者との比較を示す。

《十分》(42.8%)は前回調査(54.2%)より11.4ポイント減少している。(図表2-47)

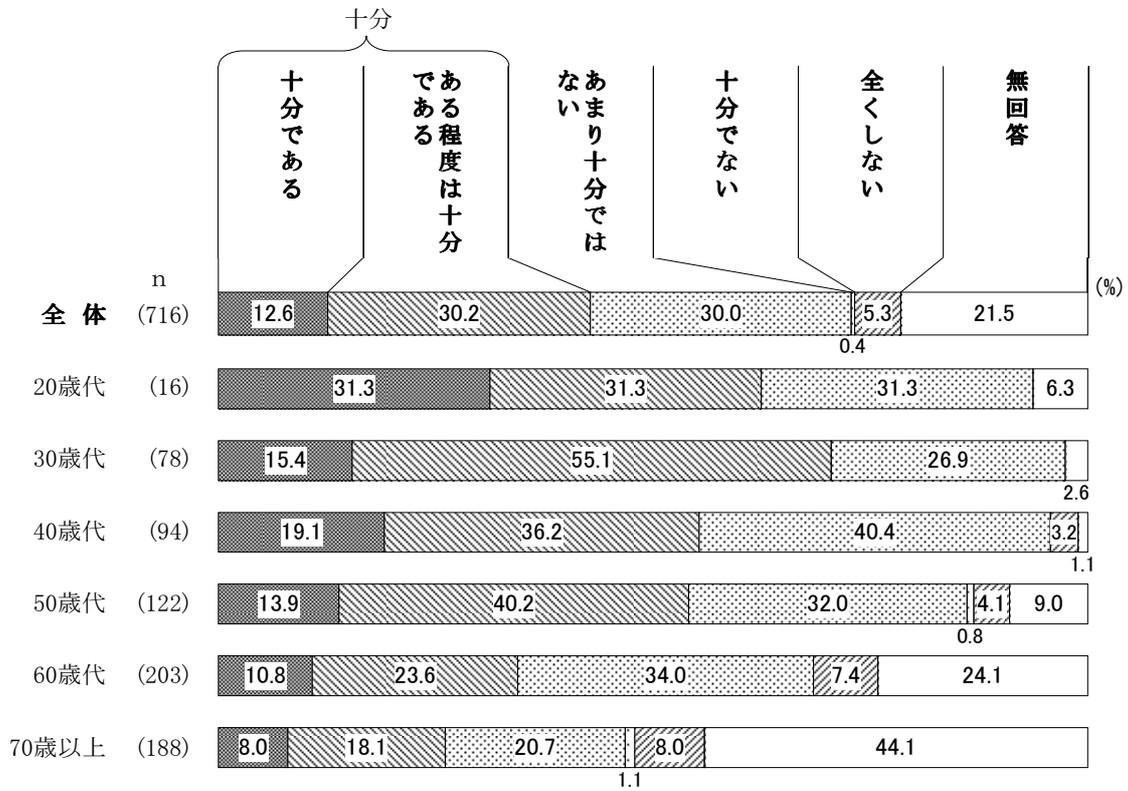
図表2-47 「育児」へのかかわり(前回調査との比較)



※「全くしない」は前回調査では「該当しない」であった

年齢別でみると、30歳代では《十分》が70.5%を占め、全年代中最も高くなっている。(図表2-48)

図表2-48 「育児」へのかわり（年齢別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

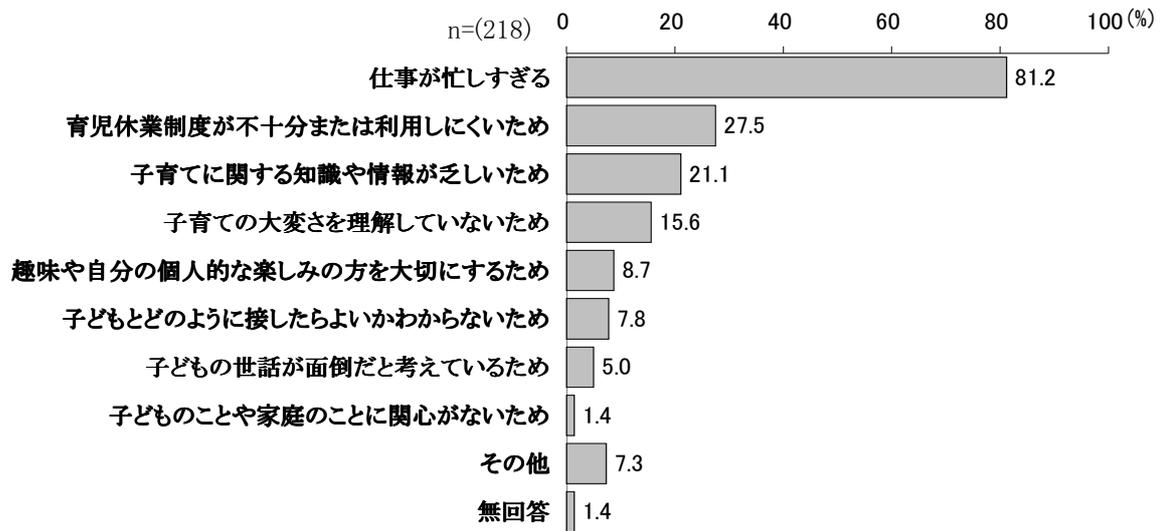
(7) 「育児」へのかかわりが十分でない原因

問7で「3. あまり十分ではない」「4. 十分でない」とお答えの方にかかっています

問7-1 「育児」へのかかわりが十分でないのは何か原因があると思いますか。

(○は3つまで)

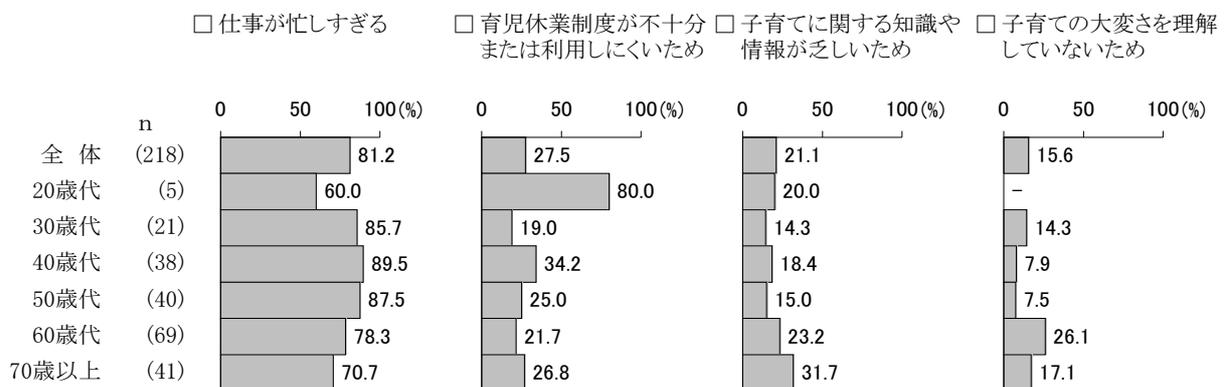
図表2-49 「育児」へのかかわりが十分でない原因（全体）



育児へのかかわりが「あまり十分ではない」「十分でない」という人に、その原因を聞いたところ、「仕事が忙しすぎる」が81.2%で最も高く、以下「育児休業制度が不十分または利用しにくい」(27.5%)、「子育てに関する知識や情報が乏しい」(21.1%)の順で続いている。(図表2-49)

年齢別でみると、30歳代(85.7%)、40歳代(89.5%)、50歳代(87.5%)では「仕事が忙しすぎる」が、いずれも8割台半ばを超えて、他の年代より高くなっている。また、40歳代では「育児休業制度が不十分、または利用しにくい」も34.2%と高くなっている。(図表2-50)

図表2-50 「育児」へのかかわりが十分でない原因（年齢別 上位4項目）

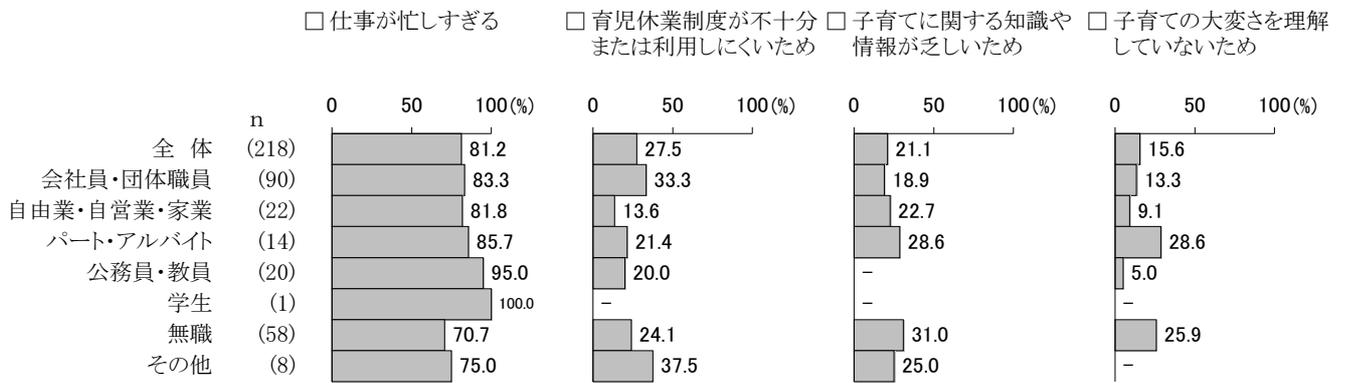


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

職業別で見ると、公務員・教員では「仕事が忙しすぎる」が95.0%を占めているほか、会社員・団体職員、自由業・自営業・家業、パート・アルバイトでも8割を超えている。また、会社員・団体職員では、「育児休業制度が不十分、または利用しにくい」も33.3%と高くなっている。(図表2-51)

図表2-51 「育児」へのかかわりが十分でない原因（職業別 上位4項目）



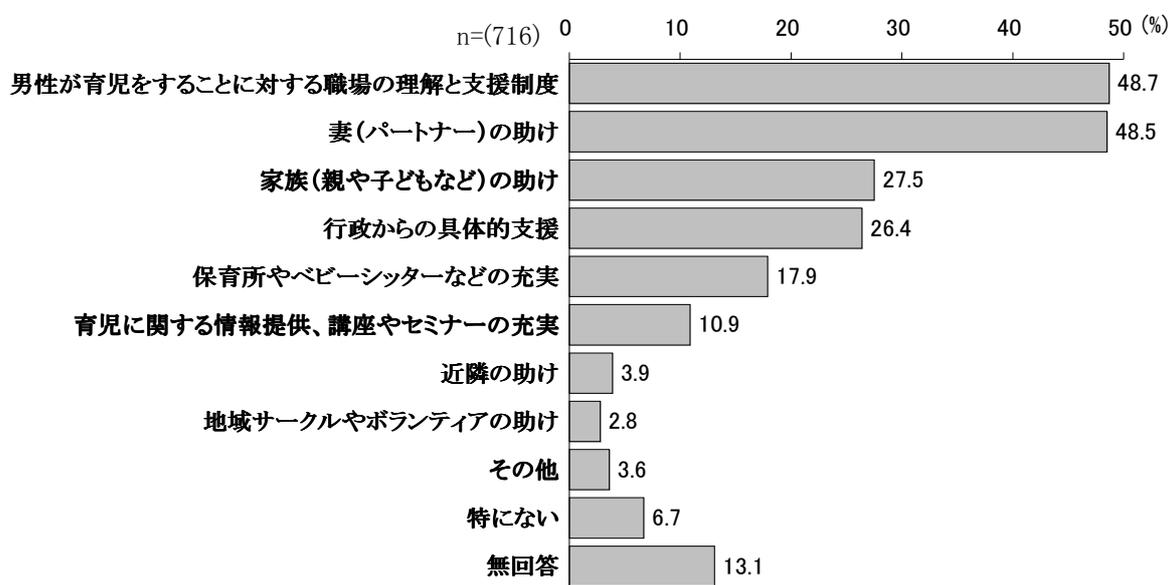
※専業主夫は回答者なし

※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(8) 男性が育児に参加するために必要なこと

問8 あなたは男性が育児に参加するために、何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

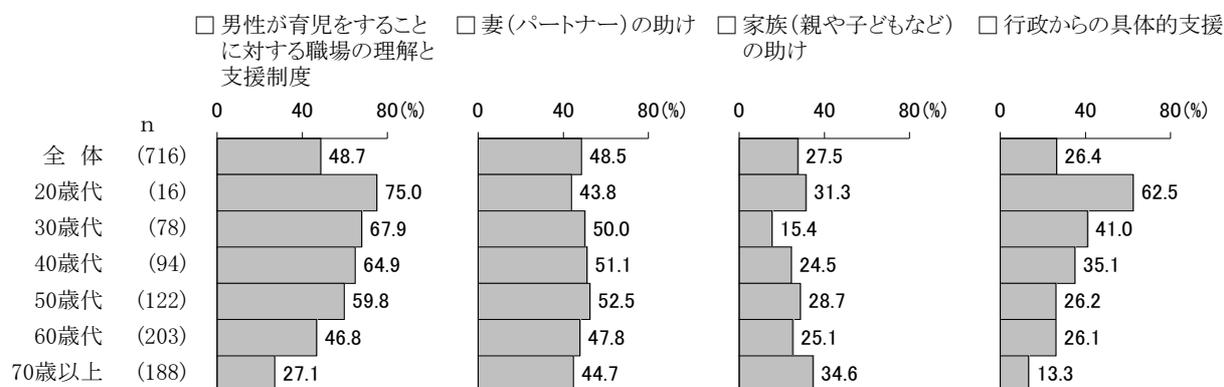
図表2-52 男性が育児に参加するために必要なこと (全体)



男性が育児に参加するために必要なこととしては、「男性が育児をすることに対する職場の理解と支援制度」(48.7%)と「妻(パートナー)の助け」(48.5%)の2項目が、いずれも5割近くを占め、特に高くなっている。また、「家族(親や子どもなど)の助け」(27.5%)と「行政からの具体的支援」(26.4%)も2割台半ばを占め、高くなっている。(図表2-52)

年齢別でみると、30歳代、40歳代では「男性が育児をすることに対する職場の理解と支援制度」が、それぞれ67.9%、64.9%と、他の年代より高くなっている。また、30歳代では「行政からの具体的支援」も41.0%と高くなっている。(図表2-53)

図表2-53 男性が育児に参加するために必要なこと (年齢別 上位4項目)

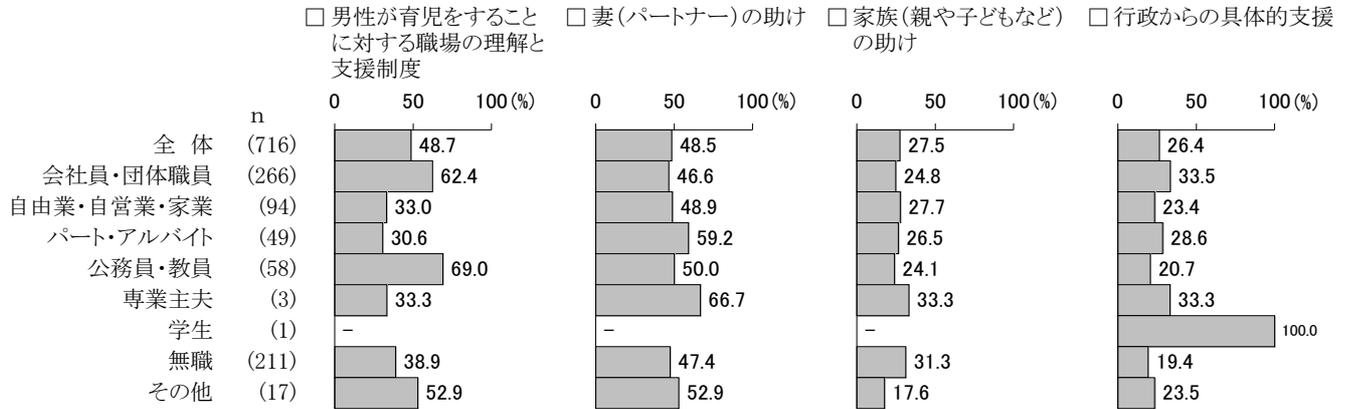


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

職業別でみると、公務員・教員、会社員・団体職員では、「男性が育児をすることに対する職場の理解と支援制度」が、それぞれ69.0%、62.4%と他の層より高くなっている。また、会社員・団体職員では「行政からの具体的支援」も33.5%と高くなっている。(図表2-54)

図表2-54 男性が育児に参加するために必要なこと（職業別 上位4項目）



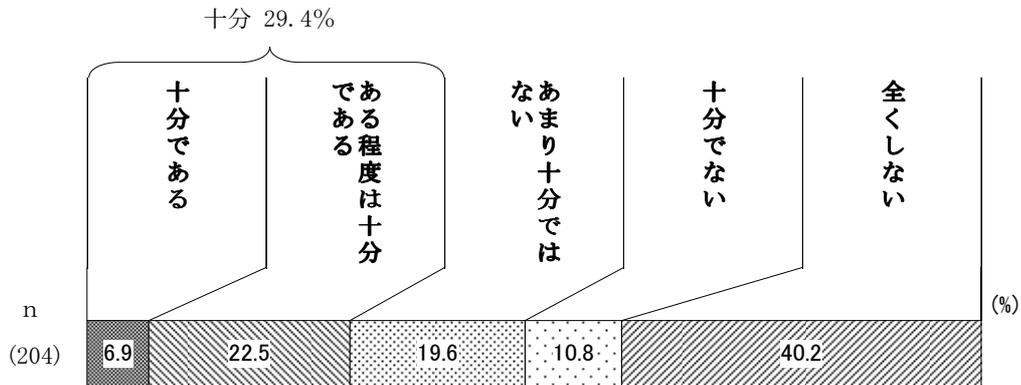
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(9) 「介護」 へのかかわり

家族に介護の必要な方がいる方のみにかかっています

問9 「介護」 について、かかわりは十分だと思いますか。(○は1つ)

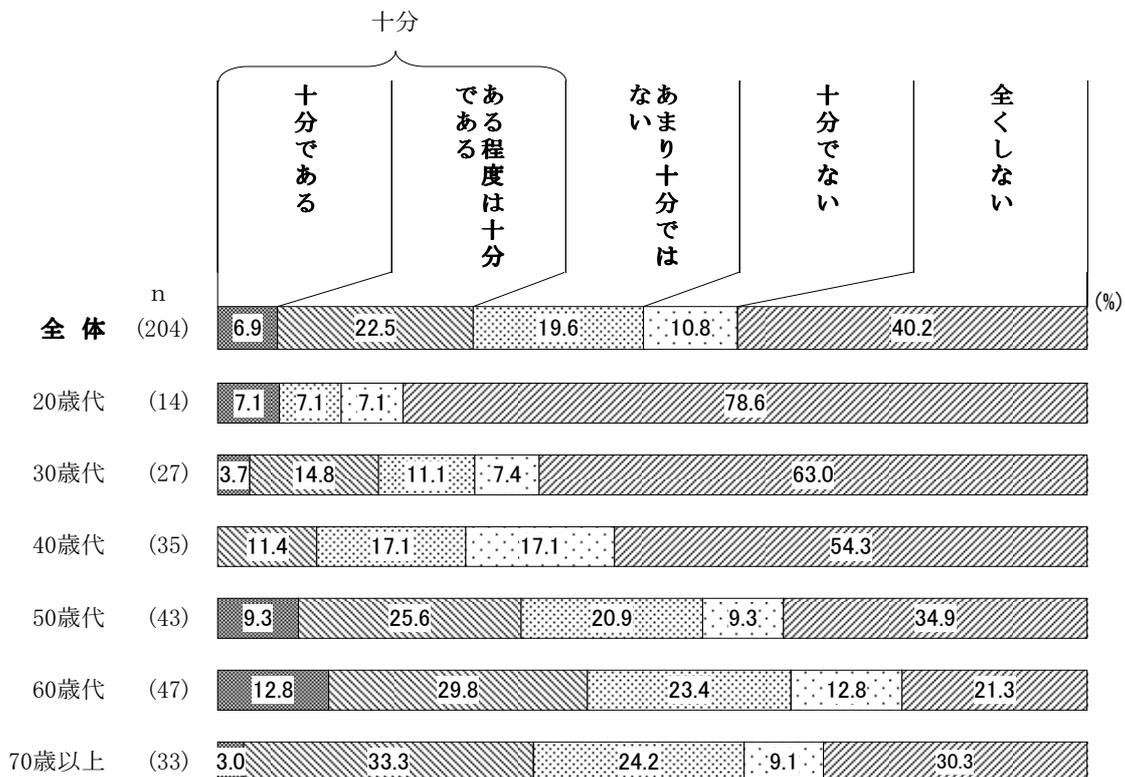
図表 2-55 「介護」 へのかかわり (全体)



〈介護〉 へのかかわりについて、「十分である」は6.9%で、これに「ある程度は十分である」(22.5%)を合わせた《十分》は29.4%となっている。一方、「あまり十分ではない」は19.6%、「十分でない」は10.8%となっている。(図表 2-55)

年齢別でみると、60歳代では《十分》が42.6%となっている。(図表 2-56)

図表 2-56 「介護」 へのかかわり (年齢別)



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

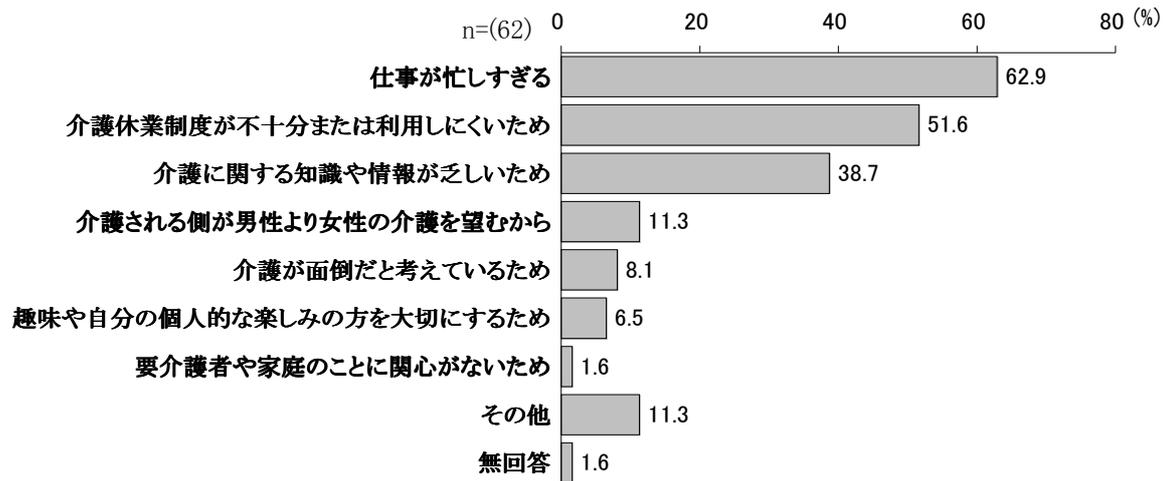
(10) 「介護」へのかかわりが十分でない原因

問9で「3. あまり十分ではない」「4. 十分でない」とお答えの方にかかっています

問9-1 「介護」へのかかわりが十分でないのは何か原因があると思いますか。

(〇は3つまで)

図表2-57 「介護」へのかかわりが十分でない原因（全体）

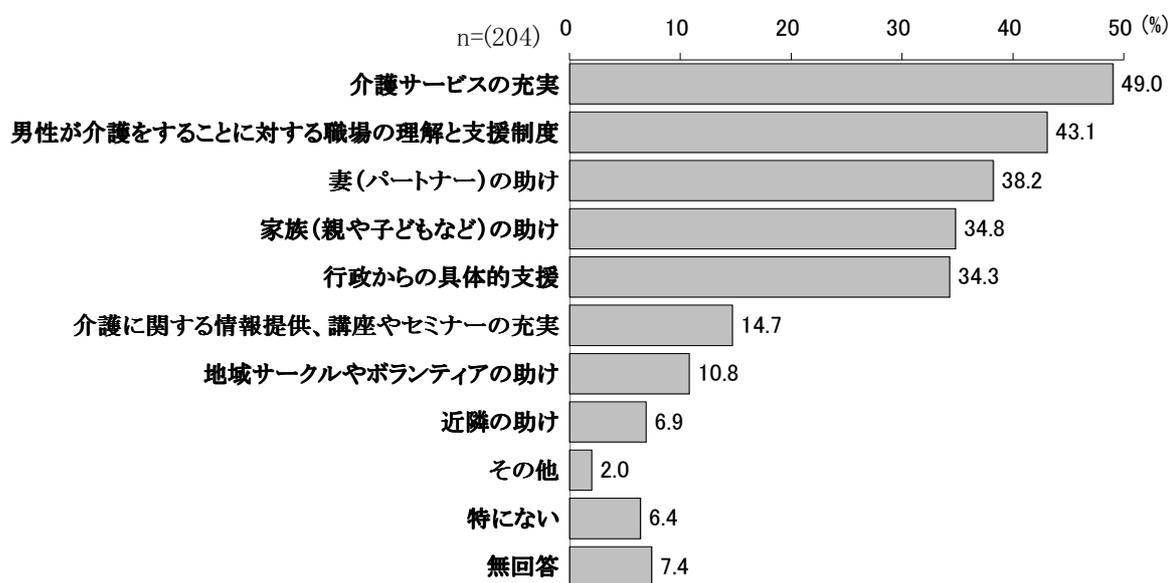


介護へのかかわりが「あまり十分ではない」「十分でない」という人に、その原因を聞いたところ、「仕事が忙しすぎる」が62.9%で最も高く、以下「介護休業制度が不十分または利用しにくい」(51.6%)、「介護に関する知識や情報が乏しい」(38.7%)の順で続いている。(図表2-57)

(11) 男性が介護に参加するために必要なこと

問10 あなたは男性が介護に参加するために、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 2-58 男性が介護に参加するために必要なこと (全体)

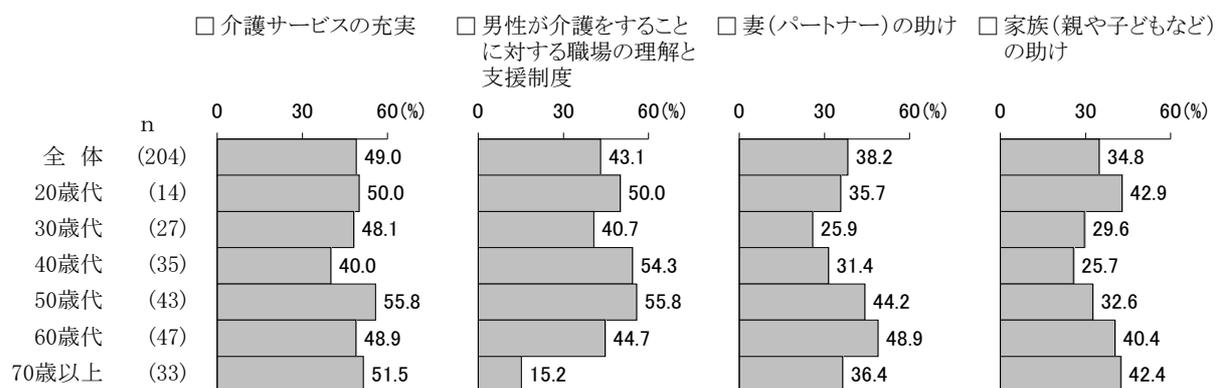


男性が介護に参加するために必要なこととしては、「介護サービスの充実」が49.0%で最も高く、以下「男性が介護をすることに對する職場の理解と支援制度」(43.1%)、「妻(パートナー)の助け」(38.2%)、「家族(親や子どもなど)の助け」(34.8%)、「行政からの具体的支援」(34.3%)が続いている。(図表 2-58)

年齢別でみると、40歳代、50歳代で「男性が介護をすることに對する職場の理解と支援制度」が、それぞれ54.3%、55.8%と半数を超えているほか、60歳代でも44.7%となっている。また、50歳代(44.2%)、60歳代(48.9%)では「妻(パートナー)の助け」が、他の年代より高くなっている。

さらに、50歳代、70歳以上では「介護サービスの充実」も、それぞれ55.8%、51.5%と高くなっている。(図表 2-59)

図表 2-59 男性が介護に参加するために必要なこと (年齢別 上位4項目)

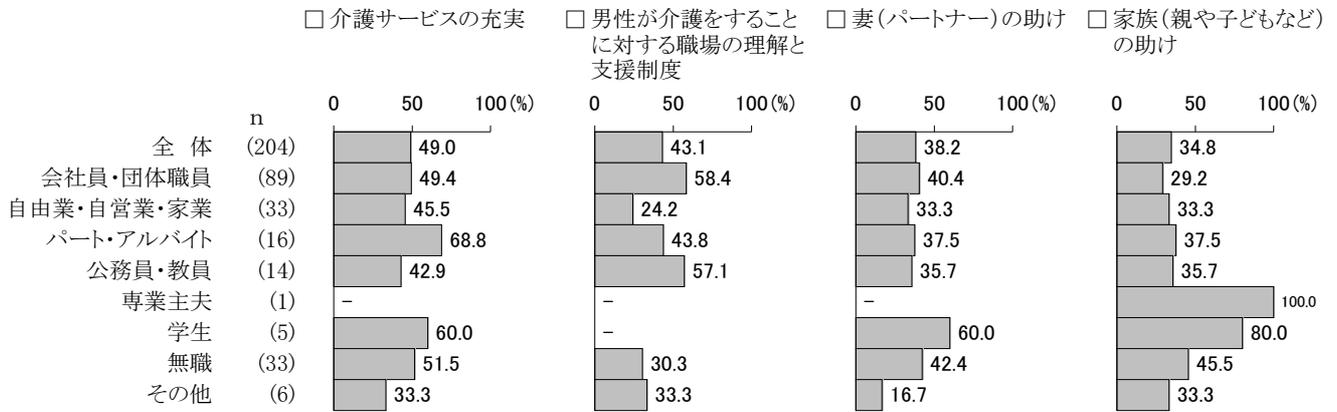


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

職業別でみると、会社員・団体職員では「男性が介護をすることに対する職場の理解と支援制度」が58.4%と、他の層より高くなっている。(図表2-60)

図表2-60 男性が介護に参加するために必要なこと（職業別 上位4項目）

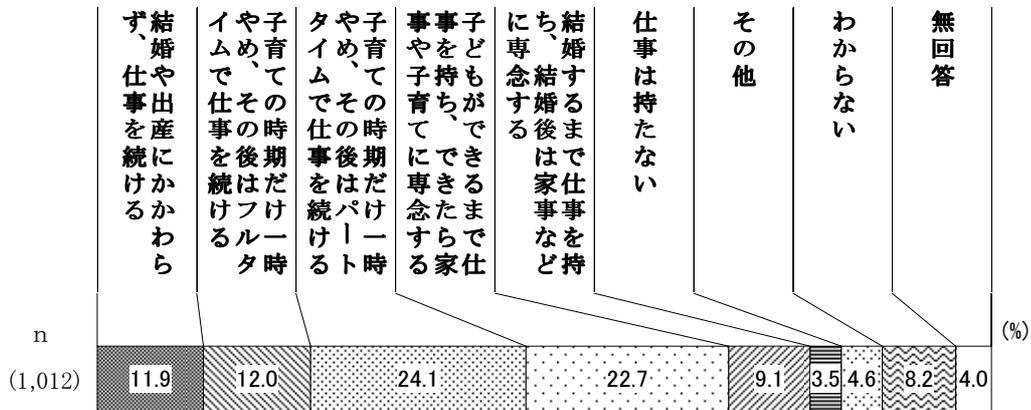


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(12) 希望する妻の働き方

問11 あなたが希望する妻の働き方は何ですか。(〇は1つ)

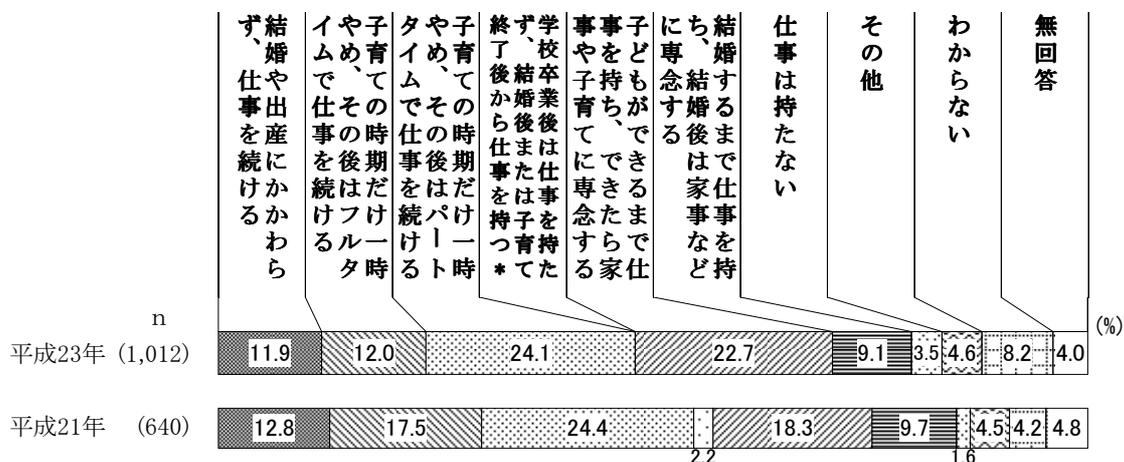
図表 2-61 希望する妻の働き方 (全体)



希望する妻の働き方としては、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」という《パートタイム再就職型》(24.1%)と「子どもができるまで仕事をもち、できたら家事や子育てに専念する」という《出産退職型》(22.7%)が、いずれも2割を超えて、高くなっている。また、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」という《就労継続型》は11.9%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」という《フルタイム再就職型》は12.0%となっている。(図表2-61)

前回調査は女性の働き方の理想を聞いたものであるが、これを前回の男性回答者と比較すると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(12.0%)は前回調査(17.5%)より5ポイント減少している。(図表2-62)

図表 2-62 希望する妻の働き方 (前回調査との比較)

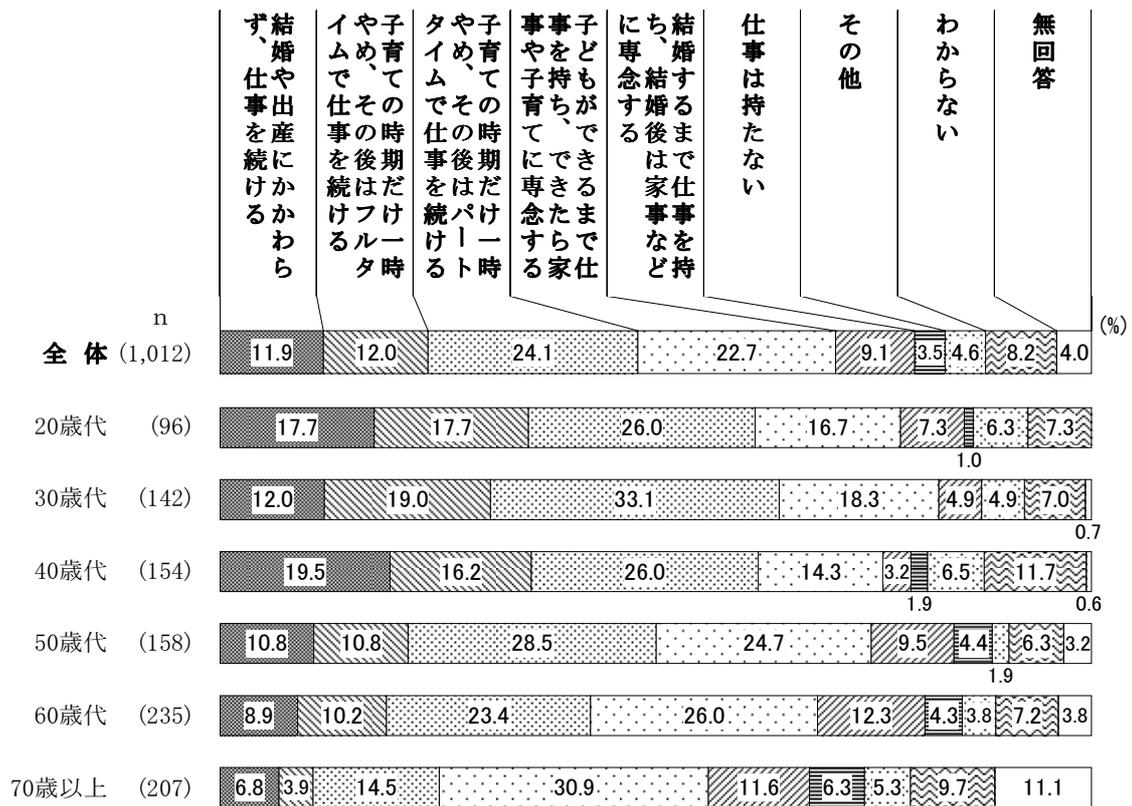


※「学校卒業後は仕事をもち、結婚後または子育て終了後から仕事をもち」は今回調査では選択としてなし

第IV章 調査の結果

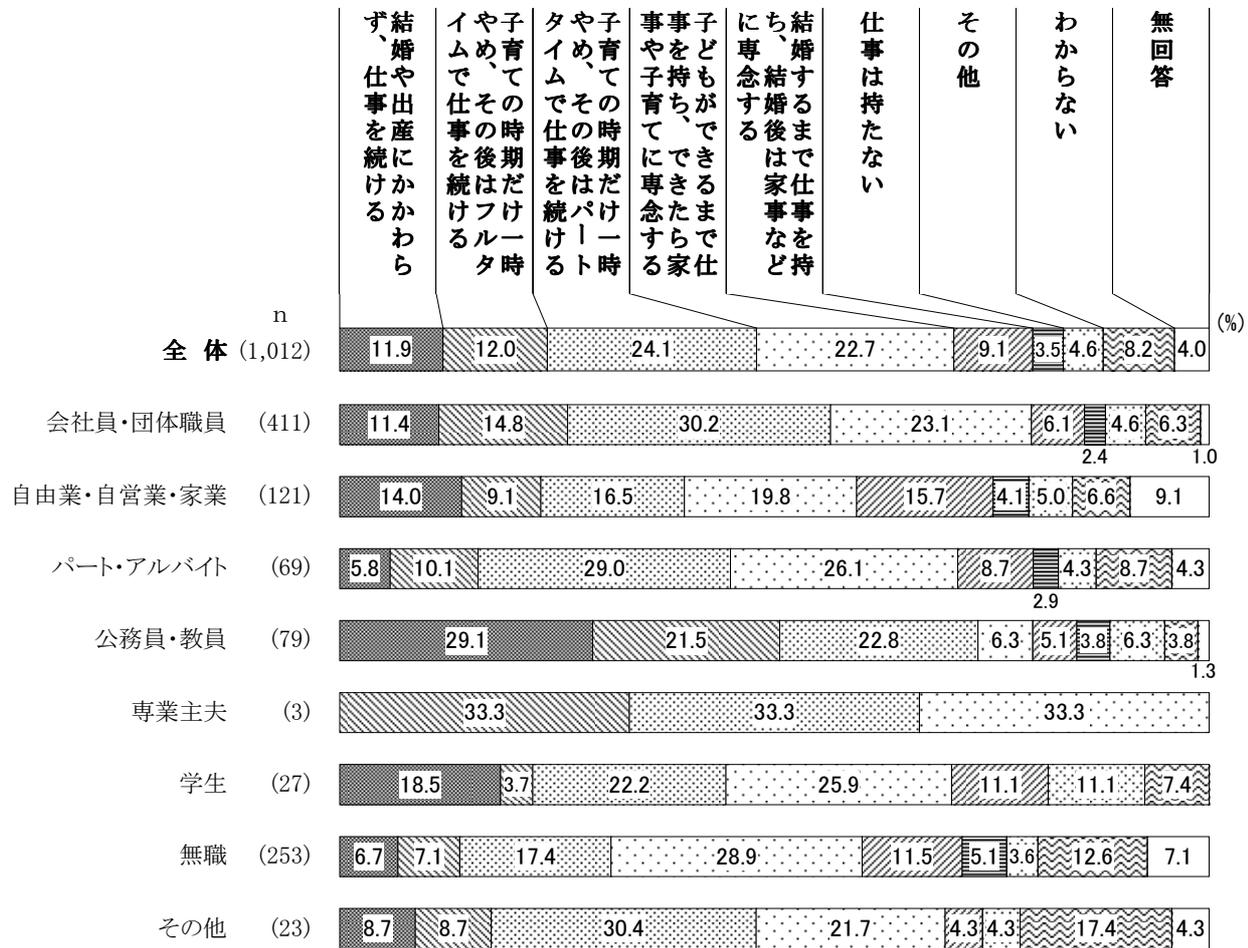
年齢別で見ると、20歳代、40歳代では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が、それぞれ17.7%、19.5%とやや高くなっている。30歳代では、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が33.1%と全年代中最も高くなっている。50歳代以降になると、年齢が高くなるにつれて、「子どもができるまで仕事をもち、できたら家事や子育てに専念する」が増加し、70歳以上では30.9%を占めている。(図表2-63)

図表2-63 希望する妻の働き方(年齢別)



職業別でみると、会社員・団体職員では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が30.2%と高くなっているのに対して、公務員・教員では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が29.1%を占めている。(図表2-64)

図表2-64 希望する妻の働き方(職業別)

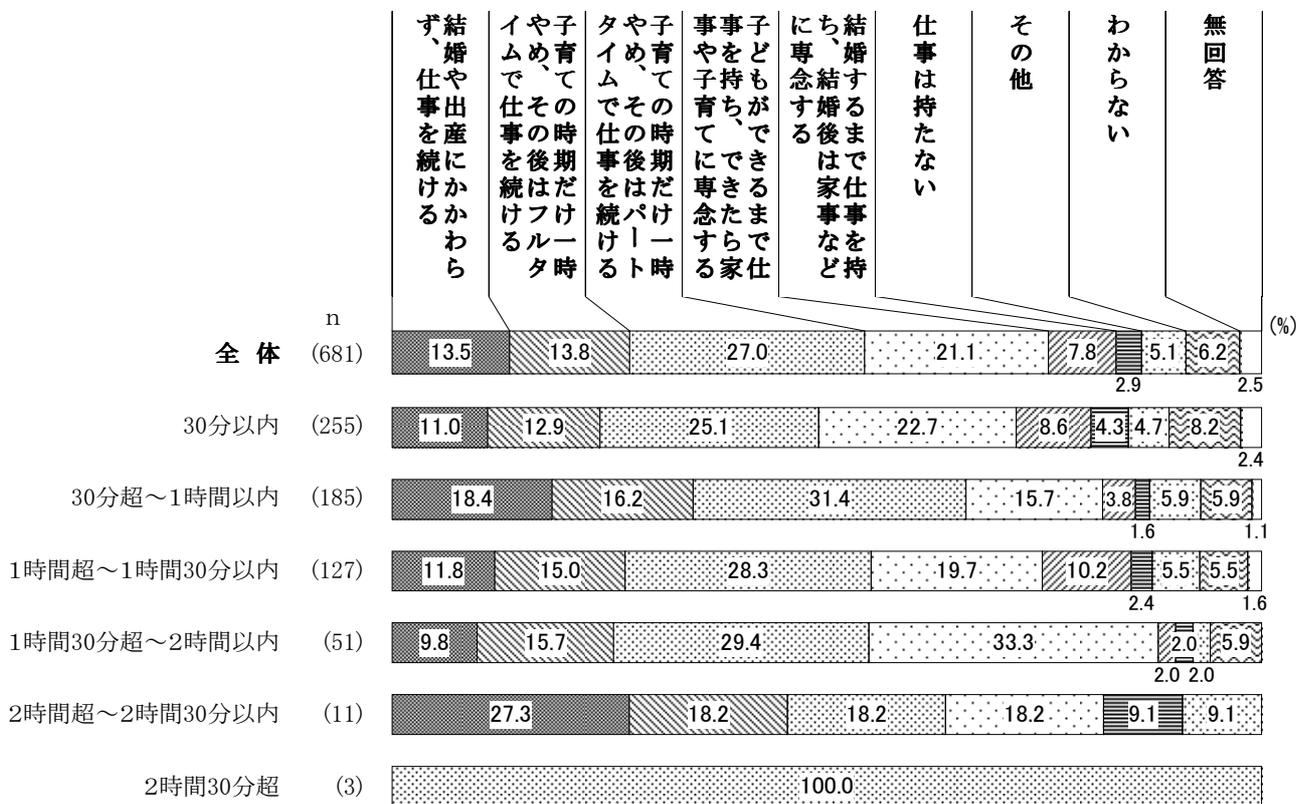


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

通勤・通学時間別で見ると、30分超～1時間以内、1時間超～1時間30分以内、1時間30分超～2時間以内で、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が、それぞれ31.4%、28.3%、29.4%と3割前後を占めている。(図表2-65)

図表2-65 希望する妻の働き方(通勤・通学時間別)



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

居住地域別でみると、利根地域では、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が36.4%と、全地域中最も高くなっている。(図表2-66)

図表2-66 希望する妻の働き方（居住地域別）

(%)

		n	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念する	子どもができるまで仕事をもち、結婚後は家事などに専念する	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事などに専念する	仕事は持たない	その他	わからない	無回答
居住地域別	全体	1,012	11.9	12.0	24.1	22.7	9.1	3.5	4.6	8.2	4.0	
	南部地域	98	12.2	14.3	22.4	22.4	7.1	6.1	2.0	8.2	5.1	
	南西部地域	90	10.0	8.9	21.1	23.3	10.0	5.6	4.4	14.4	2.2	
	東部地域	156	17.9	10.9	20.5	23.1	11.5	1.3	5.1	4.5	5.1	
	さいたま地域	168	11.9	16.1	23.8	21.4	7.7	3.0	6.0	7.7	2.4	
	県央地域	64	9.4	4.7	29.7	26.6	7.8	1.6	7.8	9.4	3.1	
	川越比企地域	117	8.5	15.4	23.1	22.2	7.7	2.6	7.7	6.8	6.0	
	西部地域	107	9.3	9.3	25.2	29.0	8.4	4.7	3.7	7.5	2.8	
	利根地域	88	8.0	11.4	36.4	20.5	8.0	3.4	2.3	10.2	-	
	北部地域	76	13.2	14.5	22.4	19.7	10.5	3.9	1.3	7.9	6.6	
	秩父地域	12	33.3	-	16.7	16.7	-	-	-	16.7	16.7	

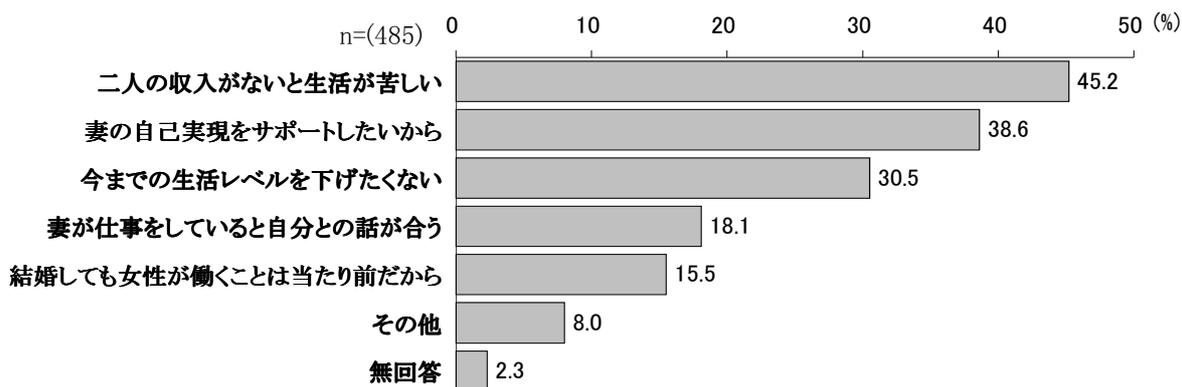
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(13) 妻に働き続けてほしい理由

問11で「1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」「3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とお答えの方にうかがいます

問11-1 仕事を続けてほしい、または子育てしながら働いてほしいを選んだ理由は何ですか。(〇はいくつでも)

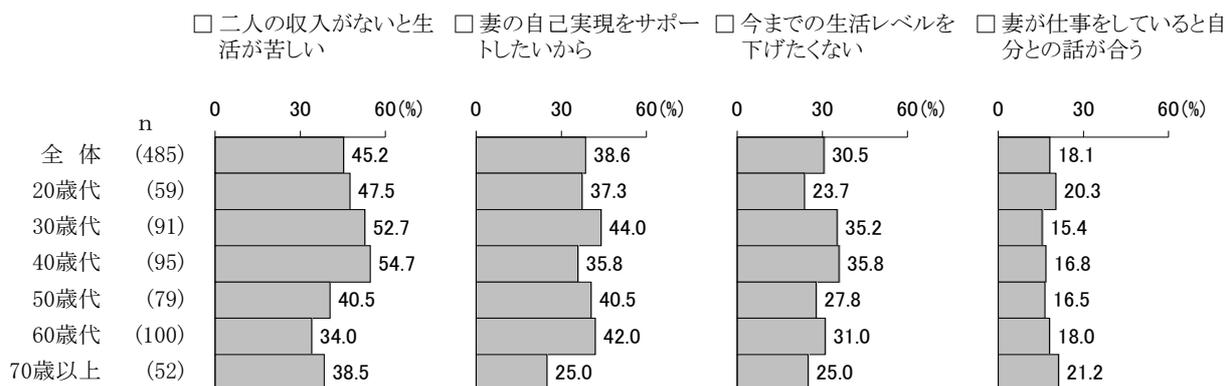
図表 2-67 妻に働き続けてほしい理由 (全体)



「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」を選んだ人に、その理由を聞いたところ、「二人の収入がないと生活が苦しい」が45.2%で最も高く、以下「妻の自己実現をサポートしたいから」(38.6%)、「今までの生活レベルを下げたくない」(30.5%)の順で続いている。(図表 2-67)

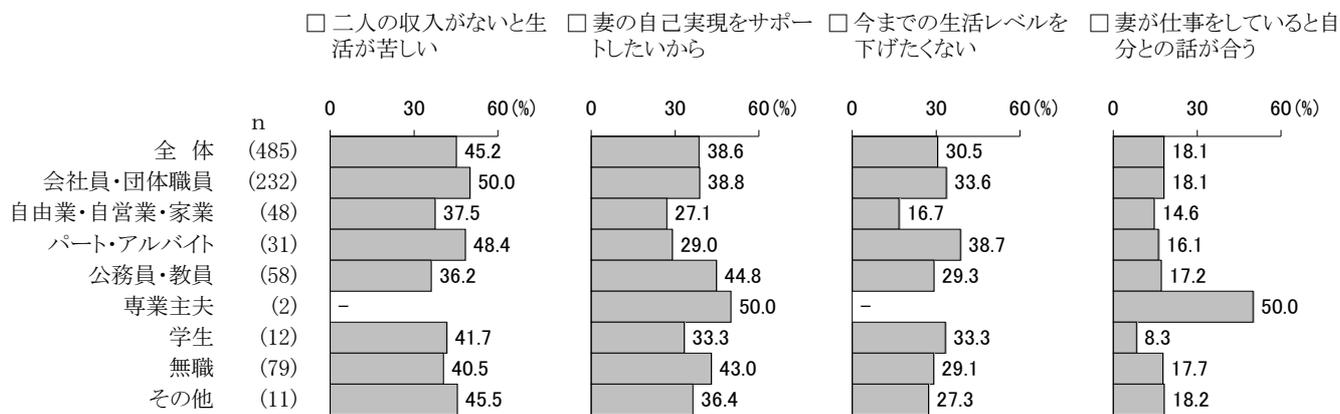
年齢別でみると、30歳代、40歳代では「二人の収入がないと生活が苦しい」が、それぞれ52.7% 54.7%と5割を超えているほか、「今までの生活レベルを下げたくない」も3割台半ばを超えている。また、30歳代(44.0%)、50歳代(40.5%)、60歳代(42.0%)では「妻の自己実現をサポートしたいから」が、いずれも4割を超えて高くなっている。(図表 2-68)

図表 2-68 妻に働き続けてほしい理由 (年齢別 上位4項目)



職業別でみると、会社員・団体職員、パート・アルバイトでは「二人の収入がないと生活が苦しい」が、それぞれ50.0%、48.4%と約5割である。一方、公務員・教員では「妻の自己実現をサポートしたいから」が44.8%と、「二人の収入がないと生活が苦しい」(36.2%)を上回っている。(図表2-69)

図表2-69 妻に働き続けてほしい理由(職業別 上位4項目)



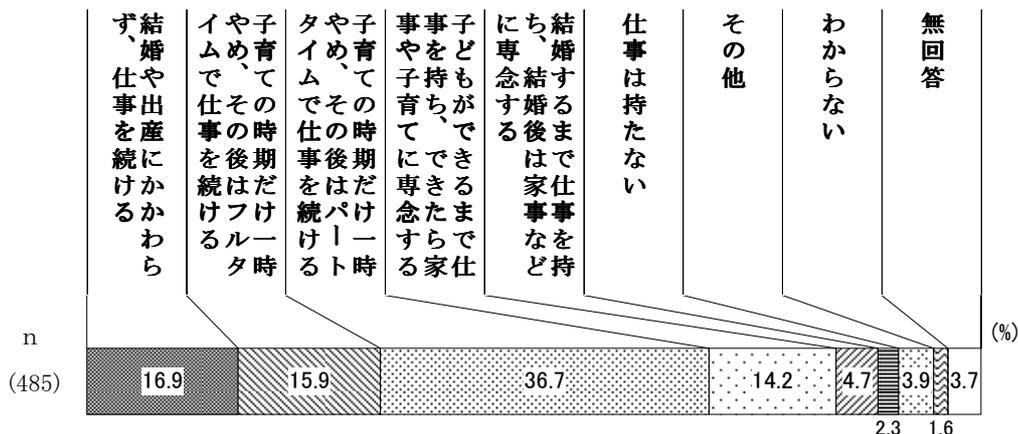
※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

(14) 本人の収入で家計をまかなうことができる場合に希望する妻の働き方

問11で「1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」「3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」とお答えの方にかがいます

問11-2 もし、あなたひとりの収入で家計をまかなうことができる場合、あなたが希望する妻の働き方は何ですか。(〇は1つ)

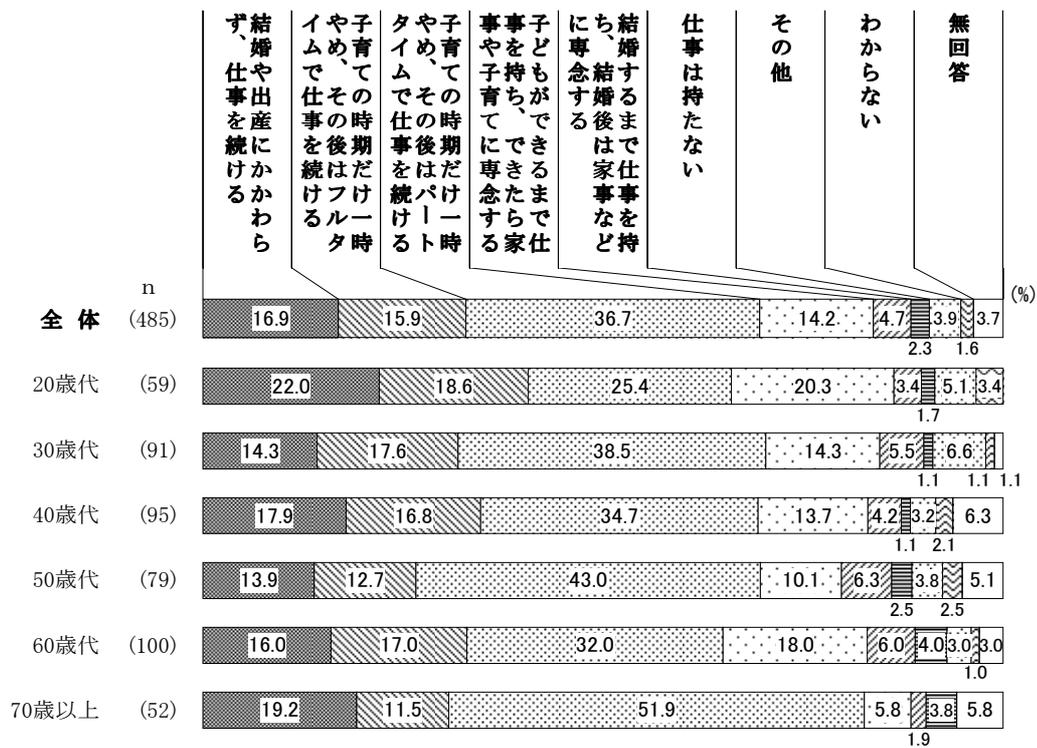
図表2-70 本人の収入で家計をまかなうことができる場合に希望する妻の働き方（全体）



本人の収入で家計をまかなうことができる場合、希望する妻の働き方としては、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が36.7%で最も高く、これに「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が16.9%で次いでいる。一方、「子どもができるまで仕事をもち、できたら家事や子育てに専念する」は14.2%、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事などに専念する」は4.7%となっている。(図表2-70)

年齢別でみると、20歳代、60歳代では「子どもができるまで仕事を持ち、できたら家事や子育てに専念する」が、それぞれ20.3%、18.0%と2割前後を占め、やや高くなっている。また、50歳代、70歳以上では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が、それぞれ43.0%、51.9%と他の年代より高くなっている。(図表2-71)

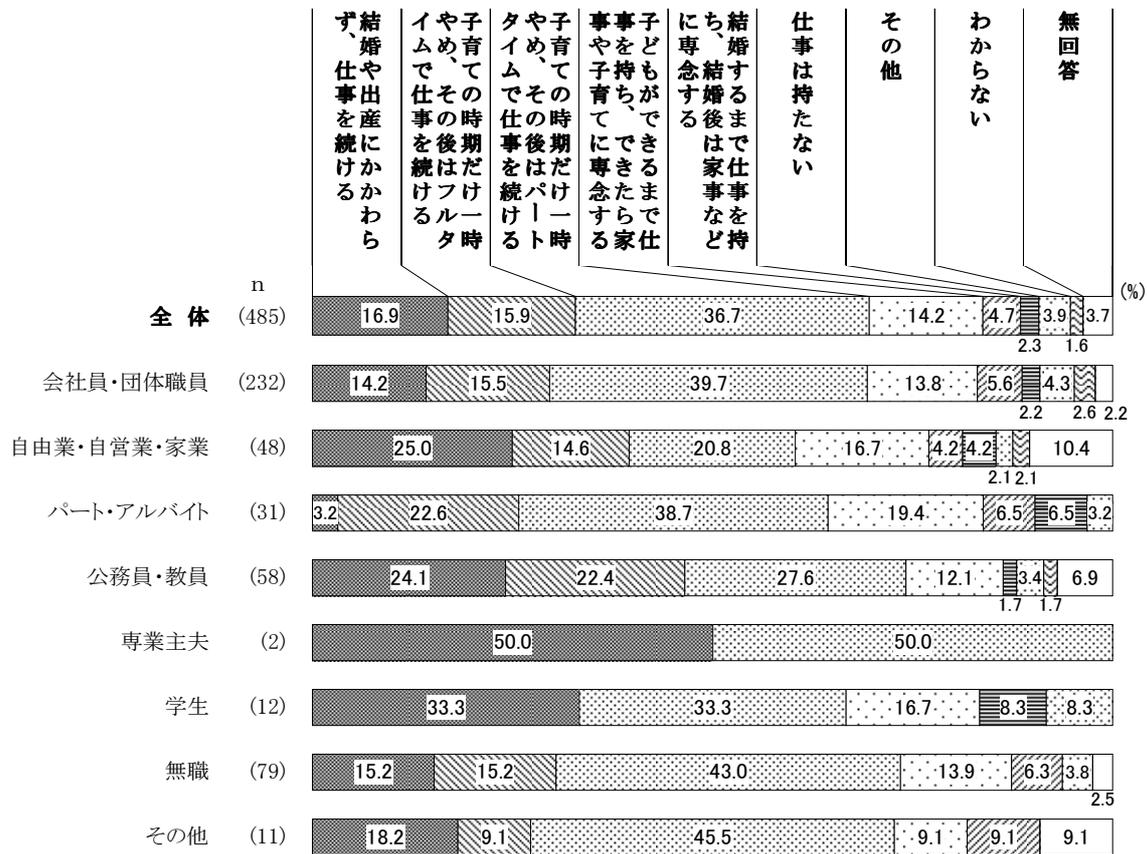
図表2-71 本人の収入で家計をまかなうことができる場合に希望する妻の働き方（年齢別）



第IV章 調査の結果

職業別でみると、会社員・団体職員、パート・アルバイトでは「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が、それぞれ39.7%、38.7%と他の層より高くなっている。また、自由業・自営業・家業、公務員・教員では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が、それぞれ25.0%、24.1%と高くなっている。(図表2-72)

図表2-72 本人の収入で家計をまかなうことができる場合に希望する妻の働き方（職業別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

居住地域別でみると、利根地域で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が59.2%と、全地域中最も高くなっている。(図表2-73)

図表2-73 本人の収入で家計をまかなうことができる場合に希望する妻の働き方(居住地域別)
(%)

		n	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、子どもができるまで仕事を専念する	子どもができるまで仕事を専念する	結婚後は家事などに専念する	結婚するまで仕事を専念する	仕事は持たない	その他	わからない	無回答
居住地域別	全体	485	16.9	15.9	36.7	14.2	4.7	2.3	3.9	1.6	3.7		
	南部地域	48	20.8	14.6	29.2	12.5	8.3	2.1	6.3	-	6.3		
	南西部地域	36	16.7	25.0	41.7	8.3	5.6	-	-	2.8	-		
	東部地域	77	24.7	18.2	28.6	11.7	5.2	2.6	3.9	-	5.2		
	さいたま地域	87	16.1	16.1	33.3	16.1	3.4	4.6	4.6	2.3	3.4		
	県央地域	28	10.7	7.1	28.6	25.0	10.7	3.6	3.6	-	10.7		
	川越比企地域	55	10.9	14.5	36.4	20.0	7.3	-	3.6	5.5	1.8		
	西部地域	47	17.0	14.9	40.4	12.8	2.1	2.1	6.4	2.1	2.1		
	利根地域	49	14.3	14.3	59.2	6.1	-	-	2.0	2.0	2.0		
	北部地域	38	21.1	10.5	39.5	18.4	5.3	-	2.6	-	2.6		
	秩父地域	6	16.7	16.7	33.3	16.7	-	-	16.7	-	-		

※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない